

CSR REPORT

2018



CHUETSU PULP & PAPER Co., Ltd.

Chuetsu Pulp & Paper stands on a global viewpoint, and tries hard on the basis of "environment-friendly corporate activity" aiming at global environmental protection and realization of the affluent society in which sustainable development is possible.

中越パルプ工業株式会社

社会環境報告書

特集
自然と人間の営みを子どもたちに伝えたい
「企業の森」を維持する
価値を考える
―対談・岡山重憲氏―

中越パルプ工業株式会社

この冊子に使用している用紙の売上の一部は、
生物多様性を保全する活動に寄付されています。
また、この紙を使用することで国産材の
有効活用が推進されます。



この印刷物は環境にやさしい
Non-VOCのハイブリッド
UVインクを使用しています。



表紙・本文／里山物語 雷鳥マツコートZ 104.7g/m² 使用

中越パルプ工業グループは、企業戦略を
確実に実施し、永続的な発展を目指しています。

私たちは、社会に貢献し信頼される企業を目指し、行動力と対話に重点を置いた取り組みを展開しています。地域に根差した企業として、地産地消を推進し、地域の方々とともに力を合わせ、地域の社会問題解決に取り組んでいます。本業を通じて、社員の一人ひとりが生物多様性保全・二酸化炭素発生抑制・廃棄物の発生抑制を意識した生産活動を行っています。

TOP MESSAGE P4-5

加藤 明美／中越パルプ工業株式会社 代表取締役社長

● 経営・事業戦略

Forward 304:
Our Mid-Term Three-Year Plan
中期3ヶ年計画
「フオワード304」について P6-11

Financial/Non Financial Data

財務・非財務データ推移 P12

Environmental Accounting

環境会計 P13

● 対談

A Talk about The Value of Maintaining Company Forestation

対談 『“企業の森”を維持する価値を考える』 P14-17

岡山 重憲／富山県フォレストリーダー協会代表

三浦 新／中越パルプ工業株式会社 取締役 資源対策本部長 兼 原材料部長

● 生物多様性への取り組み

Special Contents 01

従業員コラム 三つの里山・里海巡り P18-21

Special Contents 02

生物多様性保全の取り組み P22-23

Special Contents 03

原材料の調達に関する取り組み P24-25

● 環境への取り組み

Promoting Environmental Management

環境経営の推進 P26

Action for Environment

環境への取り組み P27

Promoting the Effective Use of Industrial Waste

産業廃棄物の有効利用推進 P28

Global Warming Countermeasures

地球温暖化防止対策 P29

Material Balance with the Production Activity

生産活動に伴う

マテリアルバランス P30

Main Environmental Data

主要な環境データ P31

● 安全な製品づくり

Dealing with Product Safety

製品の安全への対応 P32-33

● 働く環境への取り組み

Creating a Work-friendly Environment
Where Individuality Can Flourish

働きやすさと個人の能力を発揮する

環境を整える取り組み P34-35

Safety Activities Performed
by Labor and Management

労使で取り組む安全活動 P36

● 地域への取り組み

Environmental Education

環境教育 P37

Symbiosis with the Local Communities

地域との共生 P38-39

● 企業統治

Talks with Stakeholders

ステークホルダーとの
対話を通して P40-41

Corporate Governance

コーポレート・ガバナンス P42-43

Examples of Actions Based on ISO26000

ISO26000に基づく

取り組み事例 P44

Environmental Conservation Efforts
for Sustainable Development Goals

SDGsに関する

環境保全の取り組み P45

Company Profile

会社概要 P46

Locations and Facilities

事業所一覧 P47

TOP MESSAGE

新しい価値の創造に向けて 中越パルプ工業グループは、 チャレンジし続けます。

The Chuetsu Pulp & Paper Co., Ltd.
Continues Its Challenge to Create New Value.

代表取締役社長 加藤 明美

社会を潤す「新たな価値」の創造について

『新しい価値の創造』の名のもとに、中越パルプ工業グループは、2017年度を最終年度とした中長期成長戦略プラン「ネクストステージ 50」に邁進してまいりました。エネルギー事業への参入や製造コストの縮減、さらに当社グループの独自性を高め、存在感ある企業として持続的な発展を目指すため、王子ホールディングス株式会社との業務・資本提携のもと、輸入チップの共同調達会社（O&Cファイバートレーディング株式会社）からの調達や高級白板紙の共同生産会社（O&Cアイボリーボード株式会社）での製造および製袋事業（O&Cペーパーバッグホールディングス株式会社）の発展強化に向けた取り組みを進めてまいりました。

また、パルプ高度利用化計画として、川内工場において2017年6月にセルロースナノファイバー第一期商業プラントを稼働しました。当社の長年にわたるパルプ製造のノウハウとサンプル提供で得た知見を活かして、安定した品質確保、安定生産に努め、社会に貢献するnanoforest®を市場に提供してまいります。



また従来から取り組んでおります、森林資源の保護と非木材の有効利用を図る、「竹紙」や「里山物語」などの環境配慮型製品の提供はもとより、現在日本が直面しているエネルギー問題についてもその成果が顕在化してまいりました。特に間伐材などの未利用木材を有効活用し、国内最大級の規模を有する川内工場木質バイオマス燃料発電設備においては、二酸化炭素排出量「ゼロ」のクリーンな発電を実現しております。間伐材の利用促進は、森林資源や生物多様性の保全に大きく貢献いたします。さらに森林が適正に管理されることで森林価値が向上するなど、地域経済の発展にも寄与するものであります。

中越パルプ工業グループは、企業戦略を確実に実践し、持続的な発展を目指してまいります。そのことで、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えるとともに、SDGsという世界共通のフレームワークのもと、社会の共通課題に対し、さらに一歩踏み込んだコミットを実践してまいります。

Forward 304

中期3ヶ年計画 「フォワード304」について

Forward 304:
Our Mid-Term Three-Year Plan

紙パルプ業界を取り巻く環境は、電子媒体へのシフトや少子・高齢化による構造的問題のため、今後も一層厳しい情勢が続くことが予想されます。このような状況下、中越パルプ工業グループは「ネクストステージ50」で培った経営資源を最大限に活かしながら、いかなる情勢の変化にも対応し、リスクを吸収できるしなやかな企業グループの基盤を築くため、中期3ヶ年計画「フォワード304」の取り組みをスタートしました。

当社では、2013年に中長期成長戦略プランとして「ネクストステージ50」を開始し、5つの取り組み課題を掲げ、その完遂に取り組んできました。生産品種の構造転換では高板系加工原紙分野は底固い需要に支えられ今後もプラスチック容器から紙容器への転換は進むものと予想されることから、王子ホールディングス株式会社との共同事業としてO&Cアイボリーボード株式会社を設立し、共同生産体制を確立しました。包装用紙生産と製袋事業の発展強化においては、王子グループとの製袋事業の業務提携としてO&Cペーパーバッグホールディングス株式会社を設立しました。また川内工場と高岡工場の抄紙機ではクラフト紙競争力対策工事を実施しました。

エネルギー事業への参入については、川内工場で木質バイオマス燃料発電事業を展開しています。また、コストダウンにおいては、中越パルプ工業グループ全体での取り組みの結果、累計36億円のコスト削減を達成しました。パルプ高度利用化計画においては、ナノフォレスト事業を立ち上げ、セルロース・ナノファイバー量産化設備を稼働し、営業運転を開始しています。

今後の紙・板紙の需要予測では、特に紙における需要減退に歯止めがかからず、回復は期待できない状況にあります。これまで取り組んできた「ネクストステージ50」の評価を踏まえ、持続可能な事業発展を目指すため、中期3ヶ年計画を策定しました。

ネクストステージ50の総括

2013年度～2017年度にて取り組んだ、中長期成長戦略プラン「ネクストステージ50」の結果

1	生産品種の構造転換 (高板系加工原紙、特殊紙分野の強化)	王子製紙富岡工場内の遊休10マシンの改造を実施し、高板・加工原紙の生産開始
2	包装用紙生産と製袋事業の発展強化	王子グループとの製袋事業の業務提携実施 クラフト紙競争力対策工事を実施
3	エネルギー事業への参入	川内工場 太陽光発電設備設置 バイオマス燃料発電設備設置
4	コストダウン	累計36億円のコスト削減実施
5	パルプ高度利用化計画	ナノフォレスト事業部立上げ セルロース・ナノファイバー量産化設備設置(川内工場)

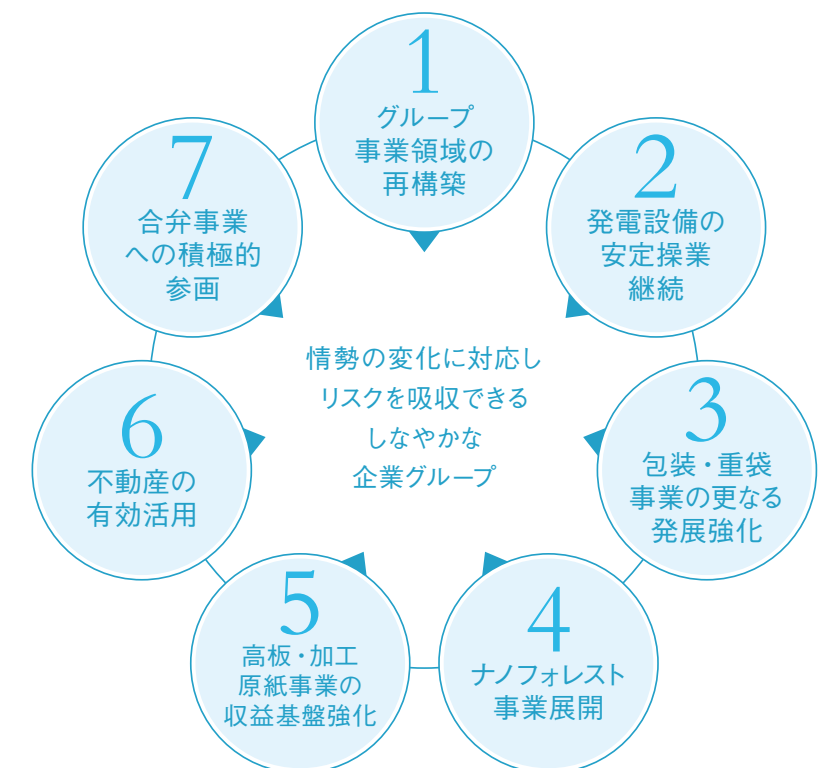
当社の中期3ヶ年計画で掲げるビジョンは、「情勢の変化に対応しリスクを吸収できるしなやかな企業グループ」を築くことです。

経営目標として、2020年度末に営業利益30億円、ROE4%の収益基盤の確立を目指します。そのための基本方針として、事業領域の選択と創造により、企業価値の向上を実現することを掲げています。そして、「フォワード304」には、目標とする数値である営業利益「30」億円とROE「4」%を合わせた「304」に向かって、全社一丸となって前進するという意味をこめています。

「フォワード304」の具体的な事業戦略として、7つの項目を掲げ推進していきます。

中期3ヶ年計画 フォワード304

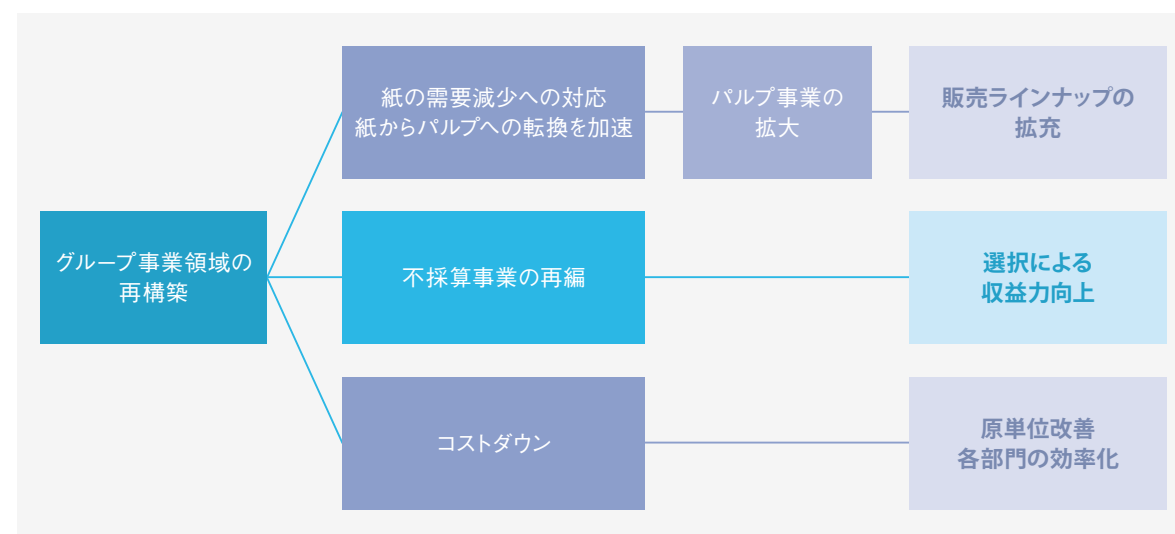
■ 事業戦略 フォワード304の事業戦略として、7つの項目について取り組む。



1 グループ事業領域の再構築 Restructuring the Group Business Domain

紙の需要減少への対応として、紙からパルプへの転換を加速します。社名にパルプがあるように、原点に立ち
返りパルプ事業の拡大を図ります。そのために、NUKPの生産・販売を計画し、ラインナップの拡充を行います。
また、不採算事業の再編を検討し、事業の選択による収益力の向上や増大するエネルギーコストなどに重点を
置き、効率化によるコストダウンの取り組みを強化していきます。

グループ事業領域の再構築について



2 発電設備の安定操業継続 Continuous Stable Operation of Power Generation Facilities

川内工場における木質バイオマス燃料発電設備は、燃料として
未利用間伐材を主体に使用しています。発電設備を安定的に運用
することが中越パルプ工業グループの収益に寄与するとともに、継
続的な間伐材の利用促進により森林資源の保全、また森林価値
の向上に貢献できるよう努めています。



3 包装・重袋事業の更なる発展強化 Reinforcing the Further Development of the Flexible Packaging & Heavy-Duty Packaging Business

王子ホールディングス株式会社との業務・資本提携のもと、包装用紙用途の原紙生産と、製袋加工品の生産を
行う重袋事業について、国内だけでなく、ベトナム・中国におけるグループ会社を中心にさらなる発展強化を今後も
継続して進めていきます。

4 ナノフォレスト事業展開 Nanoforest Business Development

パルプ高度利用化計画として進めてきましたセルロースナノファイバー（CNF）の開発については、2017年
1月にナノフォレスト事業部を立ち上げ、同年6月には第一期商業プラントを稼働、生産を開始しました。また
9月には樹脂化プラントを稼働しました。CNFは、植物が作り出した天然高分子です。当社では、植物の作り
出した天然繊維を、薬品を加えず水の力を利用してできるだけ優しく傷めないように工夫をし、取り出しています。
高機能素材であるCNFを化粧品用途など、広範囲な分野への展開を見据え、新たなパイロットプラントの
建設計画化に着手します。

ナノフォレスト展開内容について



5 高板・加工原紙事業の収益基盤強化

Reinforcing the Revenue Base of Paper Board & Converting Paper Business

O&Cアイポリーボード株式会社の高板・加工原紙事業の収益基盤強化については、王子製紙株式会社富岡工場において、共同生産事業として2017年10月に営業運転を開始しました。食品容器分野を中心とする高級白板紙・加工原紙については、当社の強みを活かして新規需要の開拓を強力に進めていきます。

6 不動産の有効活用

Effective Use of Real Estate

当社が保有している不動産の有効活用を図り、収益の向上に寄与できないか、本格的な検討を行っていきます。

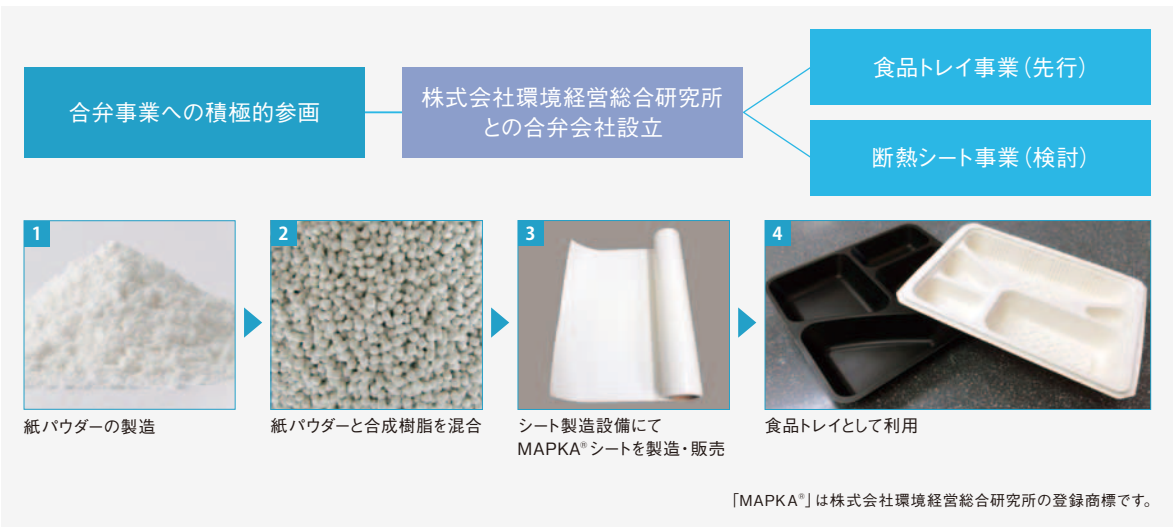
7 合併事業への積極的参画

Active Participation in Joint Ventures

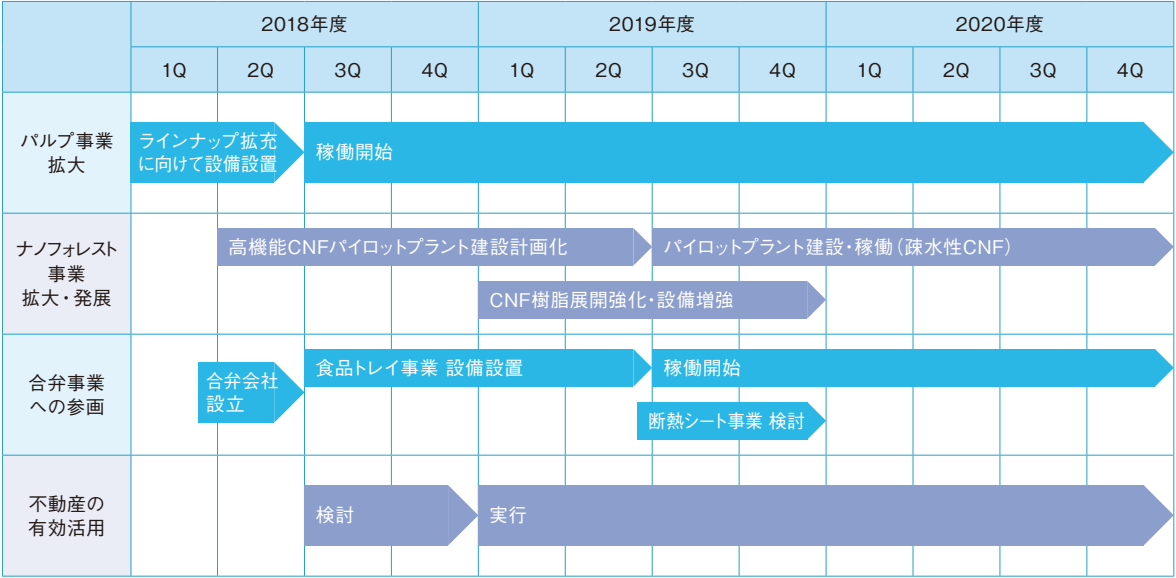
2018年7月に株式会社環境経営総合研究所と合併会社を設立し、新素材MAPKA®を食品トレイ用シートとして製造・販売に向け、取り組みを開始しました。株式会社環境経営総合研究所は、紙のマイクロパウダー化や合成樹脂との混合などの特許を有し、環境に対応する技術を有する企業です。この事業においては、製紙原料を使用した新素材MAPKA®シートを製造・販売します。このシートは紙パウダー 51～55%と合成樹脂の混合シートです。

プラスチックゴミによる海洋汚染の原因の一つは、使い捨てプラスチック容器の廃棄にあると言われており、世界各国で使用に対する規制が始まっています。本事業においては、当社高岡工場内に製造設備を設置し、株式会社環境経営総合研究所のパウダー化技術、合成樹脂との混成技術と当社の紙製造技術を融合することで、他のどこにもない唯一の素材、製品を供給することにより、世界的プラスチックゴミ問題の解決に貢献することを目指していきます。また、発泡スチロールの代替として、断熱シートの製造・販売による事業拡大を検討しています。

合併事業への積極的参画について



フォワード 304 事業戦略ロードマップ



フォワード 304 売上高・営業利益目標

売上高目標 (単位: 億円)

	2017年度実績	2020年度末目標基盤	差異
紙パルプ事業	839	826	▲13
発電事業	60	60	0
合併事業	0	27	27
関係会社他	49	42	▲7
合計	948	955	7

営業利益目標 (単位: 億円)

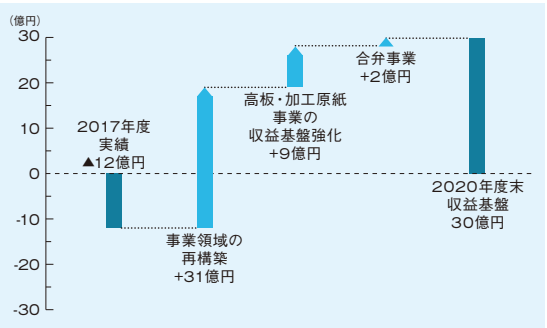
	2017年度実績	2020年度末目標基盤	差異
紙パルプ事業	▲31	9	40
発電事業	14	14	0
合併事業	0	2	2
関係会社他	5	5	0
合計	▲12	30	42

連結経営成績目標 (単位: 億円)

	2017年度実績	2020年度末目標基盤	差異
売上高	948	955	7
営業利益	▲12	30	42
経常利益	▲13	31	44
純利益	▲52	20	72
ROE (%)	—	4	—

フォワード 304 連結営業利益増減計画

営業利益目標 2017年度実績対比



財務戦略

営業キャッシュフロー (単位: 億円)

	2018年度	2019年度	2020年度	合計
減価償却費	81	71	69	221
税引前当期純利益	▲2	14	29	41
税金費用	▲1	▲3	▲5	▲9
営業キャッシュフロー	78	82	93	253

使途方針



財務・非財務データ推移

Financial/Non Financial Data

中越パルプ工業株式会社および連結子会社

財務データ推移 | Changes in Financial Data

項目	単位	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
売上高	百万円	99,721	101,141	99,927	93,882	94,824
営業利益	百万円	3,026	1,625	1,413	1,489	△ 1,242
経常利益	百万円	2,943	1,748	1,319	1,397	△ 1,293
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	531	1,608	162	1,255	△ 5,206
総資産額	百万円	132,997	130,345	132,784	130,539	126,064
純資産額	百万円	49,870	51,115	53,231	54,808	49,276
自己資本比率	%	37.5	39.2	40.1	42.0	39.1
自己資本利益率	%	1.1	3.2	0.3	2.3	－
※1株当たり純利益	円	45.64	138.03	12.41	94.03	△ 389.96
※1株当たり純資産額	円	4,278.91	4,385.98	3,986.36	4,104.65	3,690.53
※1株当たり配当金	円	40.00	50.00	50.00	50.00	50.00
設備投資額	百万円	9,667	10,290	11,521	5,315	4,779
減価償却費	百万円	8,533	8,616	8,855	9,021	8,836
研究開発費	百万円	356	400	390	416	388
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	9,727	8,813	9,514	13,179	7,413
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△ 9,844	△ 7,977	△ 13,142	△ 10,577	△ 7,568
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△ 231	△ 5,562	4,469	△ 2,844	△ 1,451

※ 2017 年 10 月1日付で普通株式 10 株につき1株の割合で株式併合を行っております。
2013 年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1 株当たり純利益金額・1株当たり純資産額・1株当たり配当金の算定を行っております。

非財務データ推移 | Changes in Non Financial Data

項目	単位	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
従業員数	人	1,630	1,654	1,657	1,452	1,444
障がい者雇用率	%	1.95	1.93	1.85	2.07	2.22
労働災害度数率	－	1.58	2.39	2.38	0.00	0.78
エネルギー原単位(原油換算)	KL/t	0.707	0.714	0.717	0.697	0.709
CO ₂ 排出原単位	t/ 製品 t	0.544	0.522	0.531	0.554	0.511

環境会計

Environmental Accounting

中越パルプ工業グループでは、環境負荷、リスクの低減を行うために
環境保全に関する投資を行い、環境会計という形で検証、公開を行っています。

環境保全コスト (2017 年度) | Environmental Conservation Cost (FY 2017)

(単位：百万円)

分類		主な取り組みの内容		投資額	費用額
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)				137	4,061
① 公害防止コスト		a. 大気汚染防止	60	3,722	
		b. 水質汚濁防止	13	1,070	
		c. 悪臭防止	34	2,388	
		d. 騒音防止、その他公害防止	0	139	
			13	125	
② 地球環境保全コスト		a. 省エネルギー	77	4	
		b. 国内植林	77	(製造費用に含む)	
		c. 海外植林	0	4	
			0	0	
③ 資源循環コスト			0	335	
		a. 古紙など資源の有効活用	0	(製造費用に含む)	
		b. 廃棄物削減・再利用・処分	0	335	
(2) 生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上流・下流コスト)				0	192
① 容器・包装などのリサイクル		パレット・紙管の回収・再使用	0	186	
		② 容器・包装の低環境負荷化	包装紙のノーラミネート化	0	6
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動のコスト)				0	72
① 社員環境教育など		従業員監督者研修、資格取得など	0	3	
		② 環境マネジメントシステムの構築・運用・認証取得	FSC®認証、ISO14001認証審査など	0	4
		③ 環境負荷の監視・測定	ダイオキシン類分析など	0	18
		④ 環境保全対策組織人件費	環境管理組織	0	47
(4) 研究開発活動における環境保全コスト				0	100
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)				0	5
① 地域住民環境活動支援など		地域社会対策、環境モニター	0	2	
		② 環境情報の公表、環境広告	環境報告書、ウェブサイト	0	3
(6) 環境損傷に対応するコスト				0	47
合 計				137	4,477

環境保全効果 (2017 年度) | Environmental Conservation Effects (FY 2017)

効果の内容		環境保全効果の指標						
		指標の分類		実績	対前年比			
(1) 事業エリア内で生じる 環境保全効果 (事業エリア内効果)	① 地球環境保全関係	a. 省エネルギー	消費エネルギー量	20,196百万MJ	88百万 MJ 増加			
			CO ₂ 排出量	376千t-CO ₂	37千t-CO ₂ 減少			
		b. 植林	植林面積増加量	2,096ha	107ha 減少			
			CO ₂ 固定量	28千t-CO ₂	5千t-CO ₂ 減少			
	② 資源循環関係	a. 薬品回収	環境負荷化学物質	－	－			
			環境負荷化学物質削減	－	－			
(2) 上・下流で生じる 環境保全効果 (上・下流効果)	① 製品リサイクル	古紙回収	古紙使用量	74,219千m³	3,073千m³ 増加			
	② 容器包装 リサイクル	パレット・紙管 回収、再生	回収率 (実績)	パレット	48.6%	0.4% 減少		
				紙管	55.3%	5.2% 減少		
			① 製品物流	物流 CO ₂ 負荷抑制	製品輸送 構成の見直し	トラック	91.2%	1.8% 増加
						コンテナ	2.7%	0.2% 増加
船舶	6.0%	1.3% 減少						
② 社会活動	割り箸回収	割り箸回収量	6,982kg	3,192kg 減少				
		使用済み 年賀はがき回収	はがき回収量	326kg	46kg 増加			

自然と人間の営みを子どもたちに伝えたい “企業の森”を維持する 価値を考える



対談

A Talk about
The Value of
Maintaining
Company Forestation

三浦 新

中越パルプ工業株式会社 取締役
資源対策本部長 兼 原材料部長

× 岡山 重憲

富山県フォレストリーダー協会 代表

中越パルプ工業は、森林の公益的機能の恩恵を受ける製紙メーカーとして、社会的責任を果たすべく、多様な取り組みをしています。その1つが、鹿児島県と富山県に開設した「中パの森」です。持続可能な里山と生物多様性の保全に注力し、森の公益的機能の体感の場として近隣住民の方々に公開することで、地域の方々との共生や社会貢献を行っています。今回は、富山県射水市に広がる「中パの森」に、“地下水の守り人” 富山県フォレストリーダー協会の岡山重憲氏を招き、当社取締役三浦新との対談が実現しました。

森の公益的機能を伝える

三浦：当社の事業中核には紙があります。紙の原料は大半が木材であり、その木材は山（森林）から得ます。さらに紙を作るためには大量の水が必要です。ここ高岡地区には2つの工場がありますが、一日に合計10万トンほどの水を使います。この水は庄川水系の和田川のダムから引いていますが、森林の「水源涵養機能」がなければ、雨が降るといったんに水が流れて出てしまう。森の涵養機能があることでダムに水が徐々に流れ、私たちもコンスタントに水を得ることができるのです。

このように、私たちの会社は森林から多くの恩恵を受けています。その森林について、皆さんに多くのことを知っていただく必要があると思い、持っていた社有林の活用を考えました。そして、2012年に鹿児島県に、1年遅れて2013年に富山県に「中パの森」を開所しました。

それを地元の射水市と高岡市に案内し、森の良さや機能を知っていただくための研修を受け入れる施設であることをアピールしました。近隣の小学校からは、校長先生を始め、全校生徒にお越しいただき、大々的な研修も行いました。研修では、里山についてはもちろん、森林の持つ公益的機能である「木材の生産機能」「水源涵養機能」についてや、その他にも「地球温暖化の防止」や「国土の流出の防止」などについて学ぶ機会を設けました。実際の森で実物を見て、それに触れながら説明すると、子どもたちの学びはより一層深くなります。

ひと昔前は「パルプ事業は森林崩壊の元凶である」などという声も聞かれたこともあります。しかしながら実はそうではなく「木を切ることで森林が再生し、価値が生まれる」という事実を皆さんにしっかりお伝えしていくことが当社の使命だと考えています。

岡山：私どもの富山県フォレストリーダー協会は、県民の皆さんに、森の持っている公益的機能を広く知ってもらうことと、実際に森に足を運んでいただき、森に対する関心を深めていただくことを目的として設立されました。

活動の場所はさまざまですが、公民館などで講演をするときには、実際に森の恵みを持ち込んだり、昔の子どもたちの“森での遊び方”を再現することもあります。



ですが一番の理想は、実際に「中パの森」のような本物のフィールドで森を体験していただき、その息吹を感じてもらうことに他なりません。

実際に森に入らなければ分からないことはたくさんあります。例えば、何となく爽やかな気持ちになったり、少し温度が下がることなどは、訪れてみて初めて感じるものです。そうした体験をより多くの方々に提供するにはどうすれば良いか、どんな工夫が大事かを絶えず考えています。そうした意味でも「中パの森」の存在は極めて大きな意味があると考えています。

子どもたちは、今までも何となく森林を見てきていますが、本当の意味での森には入ったことはありません。だからこそ、実際に森に行き、その良さや現状を知ってもらい、私たち人間がこれからどう自然と向き合っていけば良いかを考えて欲しいと思っています。

三浦：そうしたお手伝いを私どもは積極的にしたいと考えています。お声がけいただければいつでもこの「中パの森」をご提供いたします。岡山さんにはこれまでに、小学生向けの水源涵養に関して講義をしていただきましたが、そのような連携が、今後ますます増えることは大変望ましいことだと考えています。

伐採が森の活性化を促進する

三浦：よく「手つかずの自然の良さ」ということが言われますが、持続的に環境を維持して行こうとした場合、そこには誤解があります。実際には、人間が意図的に手を加えた方が森林の公益的機能が促進される場合もあるのです。

当社の製品の原料は木材ですから、木をたくさん切ります。「それは環境経営と逆行していないか」と考える方もいるでしょうが、実は、森全体を維持するためにはある程度木を切っていく必要があるのです。生物学的に意味が無いところの木を残しているのは自然のダイナミズムに反します。森林の再生能力を見極めて、定期的に伐採を行った方が再生能力は高まるのです。



岡山 重憲
Shigenori Okayama
富山県
フォレストリーダー協会代表

また、一回手を入れた木の方が環境への機能貢献が高くなります。実は、若い木の方が二酸化炭素の吸収量が多く、外に出す酸素の量も多い。逆に齢を取った木は酸素まで吸ってしまうようになる。そういった面でも、ある程度は定期的に木を切って、新しく植えてどんどん成長を促した方が森の活性化にも環境貢献にもなるのです。

岡山：三浦さんのおっしゃる通りで、森は人間が手を入れることによって守られます。もちろん、国有林や屋久杉といった保安林までは切る必要ありませんが、木を切って再生林として利用し、それが育ったらまたくり返すという生物のライフサイクル。これは人類が昔から続けてきた“自然を生かして人を潤す営み”です。ところが、まだまだ多くの人がそこを誤解しています。

かつての教育では「木を切ってはいけません」と強調していました。戦前は多くの木を切って、燃料として使用し、それによりハゲ山がたくさん出てしまい、その結果、土砂崩れなどの様々な災害が発生しました。その反動があって「木は切らないほうが良い」「自然はそのままにしておいたほうが良い」という声が高まったのです。

したがって今の日本は、1つの反省に立っているのです。あまりにも木を切りすぎて、災害が起こったことが「木を切ってはならない」という認識に変わり、それが過剰に言われるようになった。これは明らかに間違った認識ですが、私たちがどれだけ「森は人間が利用しないと再生しません」と言っても、まだまだピンとこない方はかなり多くいらっしゃいます。

そもそも日本は、世界的にみても植物が育ちやすい国土です。世界各地の凍土や違法伐採区域などの土地に生えている草木は、一度切ってしまうと生えてきません。一方で日本の国土は、縄文時代から、木を切って森を再生させて守ってきたわけです。したがって、私たち現代人も正しい

知識を持って、きちんと森を利用していくべきなのです。

三浦：そうした事実がある一方で、世界的な潮流としては、違法伐採、過剰伐採という環境破壊の問題が根強くあったことも事実です。昨年、合法木材の利用を促進する「クリーンウッド法」が定められ、これにより保安林などは法律で保護されるようになりました。当然ながら私たち中越パルプ工業もいち早く登録をして認定を得ていますし、製紙業だけではなく、チップを製造する業者、製材所や住宅メーカーにも同じような動きが見られるようになりました。

しかし日本は、世界的にみてもこうした環境対策への働きかけにスピード感がありません。本質的には法律で縛るというよりも、各企業の自律的かつ道義的な問題には違いありませんが、それにしても足並みが揃うまでに時間がかかり過ぎです。日本は世界的にみても、違法伐採が少ない国であったため対応が遅れたという背景はありますが、世界の潮流を敏感に察知して、スピーディーに対応策を練ることも先進国の大事な役割だと思います。

環境経営の目的と課題

三浦：よく、企業の環境経営にはコストがかかると言われる。確かにそうした側面もありますが、環境経営はコストだけで換算できるものではありません。

紙をつくる上でも、使用する木材量、薬品の量といった資源をいかに減らせるかを考えていますし、欠かせない資源である水を得ることについてもコストの削減を考えて、それを実現させる取り組みを行っています。

もちろんこの「中パの森」に関してもコストはかかります。しかしながら、森林から恩恵を受けている会社としては、こうしたフィールドを整備して、企業のシンボルとして維持してゆく必要があるのです。そして一度始めたからには、途中でやめるわけにはいきません。

会社の中からも「無駄だからやめてしまえ」という声は聞こえてきませんし、運営面でもなるべくコストをかけずに、自分たちの手で賄えることはなるべく自分たちでやるようにしています。そうした取り組みこそが地域貢献の本質であり、地域における環境対策にもなると思います。

岡山：私たちも色々な企業の森に出向きますが、長く

維持できている森にはボランティアの存在が欠かせません。

森を維持していくことは、コストはもちろんマンパワーの面でもとても大変なことです。したがって「中パの森」ももっとボランティアを受け入れる環境を整えても良いのではないかと思います。またそこが企業の環境経営を潤滑に進める力になるのではないのでしょうか。

いずれにしても、これだけの規模の森があって、県や地域の皆さんがここで学習していかれるということは、従業員の方々にとっても誇りに思えるはずです。そうした場を私たちも利用させていただけるのは、とても幸せなことだと感じています。

大人の義務と企業の責任

岡山：デジタル化が言われて久しい現代は、スポーツですらITシステムの中で競われる時代です。そんな時代だからこそ、大人は子どもたちを自然の中に誘う義務があると私は思います。次代を担う子どもたちが森に関心を持たないと、今まで続いてきた自然と人間の営みが断ち切られてしまいます。魚釣りでも山登りでも何でも良いのです。子供たちに自然の醍醐味のようなものを体験させてあげることが大切です。

ただし安全が担保できていることが大前提です。そのためには、日ごろから大人が自然と向き合う場合はどのような準備をすべきかを学んでおく必要があります。大人がしっかり準備しておかないと、子どもにケガをさせてしまうことにもなり兼ねません。それではせっかくの自然体験も本末転倒です。そうしたフィールドワークの場として「中パの森」は非常に適していると思います。

三浦：我々企業は、様々なステークホルダーの存在があって成り立っているため、基本はそうした方々に満足していただけるような取り組みが必要です。したがって、地域に根差すという意味では、この「中パの森」は価値のある取り組みであると自負しています。

もちろんこれ以外にも、環境視点で会社の事業として取り組んでいることは様々あります。例えば、プラスチックストローに代わる紙の代替品や食品トレーなどの開発にも



三浦 新
Arata Miura
中越パルプ工業株式会社
取締役
資源対策本部長 兼 原材料部長

着手していますし、昨年のCSRレポートで取り上げたセルロースナノファイバーの研究も順調に進んでいます。

資源を無駄にせず、その一方で、絶えず原単位を追求していくことは、環境のためにもなるし、ステークホルダーに対して企業としての責任を果たすことにもなる。これは永遠のテーマとして継続していきます。

中越パルプ工業は、大金を拠出することで地域貢献するという発想はありません。そうではなく「中パの森」のような自然を保持し、皆さんに活用していただくことが、地域貢献であり、企業市民としての責務であると考えています。

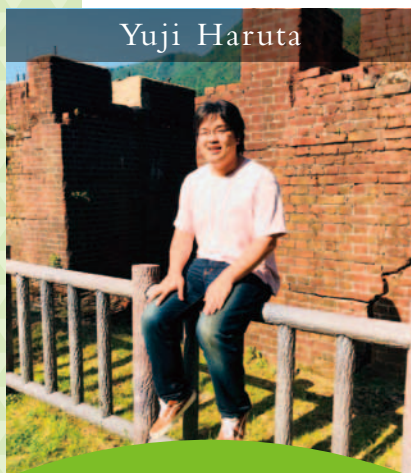


01

Special Contents 01 Visiting Three SATOYAMA & SATOUMI

三つの里山・ 里海巡り

春田 裕史 / 山下 靖広 / 永川 昌之



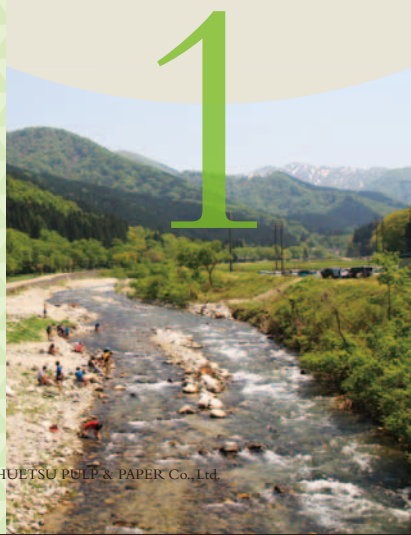
Yuji Haruta

富山 二塚

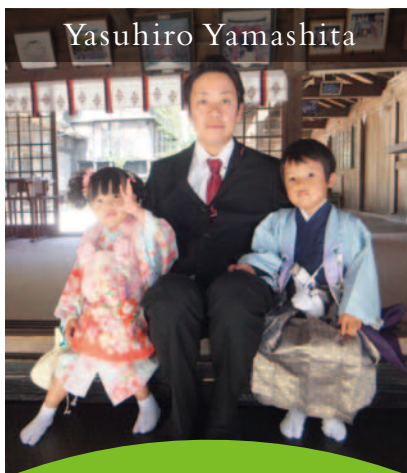
FUTATSUKA | TOYAMA

P.19

二塚工場から南へ約1時間の所にある実家。不便も多いですが不思議と安らぎを感じる場所でもあります。過疎化が進む中、自然の中で暮らしたい、都会の喧騒を離れパワーをもらいたい、里帰りしたいなど、さまざまな人を受け入れてくれる地でもあります。心のよりどころとなる田舎について、考えてみました。



1



Yasuhiro Yamashita

鹿児島 薩摩川内

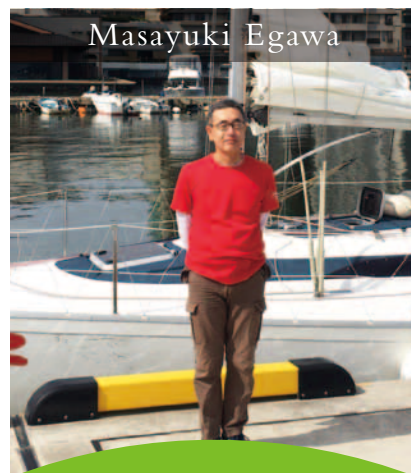
SATSUMASENDAI | KAGOSHIMA

P.20

川内工場のある薩摩川内市は、鹿児島県の北西部に位置し、市域の西側は東シナ海に面しています。今回、プラスチック廃棄物の現状と投棄されたプラスチックが引き起こす環境問題の「海に漂うマイクロプラスチック」について、廃棄物を取り扱う環境担当者の視点からレポートしました。



2



Masayuki Egawa

富山 高岡

TAKAOKA | TOYAMA

P.21

高岡工場は、高岡市の北東部に位置し、近くには海、山、川と、自然に囲まれた風光明媚な地にあります。特に、雨晴海岸から望む北アルプスの風景は、ポスターなどによく使われる場所です。そのような景観を持つ富山湾は、「世界で最も美しい湾クラブ」にも選ばれました。ヨットを通じて、自然の雄大さと大切さについて寄稿してくれました。



3

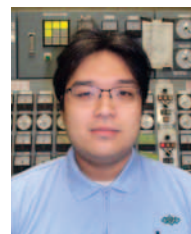
Special Contents

01-1

Living in Inconvenience and Nature

不便さと自然の中の暮らし

春田 裕史
Yuji Haruta
高岡本社
二塚製造部



二塚工場より車で約1時間。山に向かって走らせていくと、私の実家である利賀村につきます。最寄りのコンビニには車で35分という田舎で、少子高齢化社会の最先端をいっています。そんな山奥にも、もちろん人は住んでいます。どんな暮らしをしているかといわれても、町の人とそんなに変わるということはありません。1週間分の食べ物を買ってきたり、動物が出たりするくらいなものです。ちょっとどこに行くにしても遠いというだけの不便さはありますが、それくらいなものです。

私はそんな利賀村が好きです。自然が好きかといわれると違うような気はしますが、それほど身近に自然を感じて育ってきたからなのでしょう、実家に帰ると気持ち晴れるような感覚になります。陽の光によって変化する山や川の音に安心するのかな、と思います。時間があれば、ハンモックで揺られているととても気持ちがいいです。

旧スキー場での土砂崩れがあって、離村は徐々に進んでいます。でもそんなところにも移住者はまれにきます。何かの職人であったり、自然の中で子育てをしたいなど理由はさまざまですが、また、毎年春に獅子舞を行っています。利賀村内のどの地区でも存続が難しくなっているというのは現状ですが、祭りを理由に県外から帰省してくる人が多く、それで何とか続けられています。人が多くいるとやはり活気があって楽しくなります。話を聞くと富山に戻ってきたいとよく聞きます。便利な暮らし



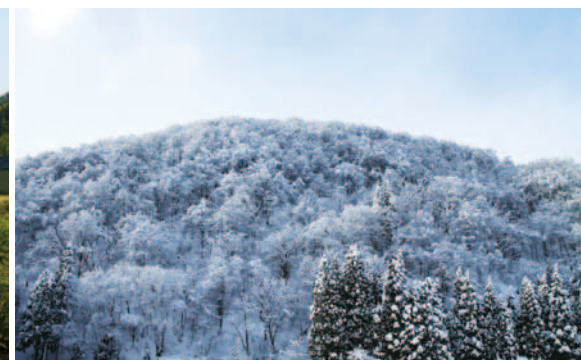
金剛堂山の山道

からも離れられない部分があるかもしれませんが、自然からもあまり離れられないようになっているのかな、と思います。それはそんなに大きな思いにはならないかもしれませんが、便利な生活に慣れて疲れてきた時には里山・里海からの自然のパワーを浴びに帰省や散歩、遠出できたらいいのかなと思います。来てみて利賀がいいところだと思ってもらえたら、移住を検討してもらえると嬉しい限りです。

最後に私の実家は豆腐屋を営んでいますので、気が向いたら購入をお願いします。



百瀬川で川遊び



近くの冬山の風景

Special Contents | 01-1 | Visiting Three SATOYAMA & SATOUMI

富山

TOYAMA

Hoping for the Reoccurrence of the Paper Bag Boom

紙袋ブームの再来を願う

山下 靖広
Yasuhiro Yamashita
川内工場
環境管理室



私は環境管理室の業務に携わって10年ほど経ちます。業務上廃棄物に関わりますが、年々増加する廃プラスチックに懸念を抱いています。少し前に発表された海外の発表によるとこれまで地球上で作られたプラスチック製品の総量は83億tあり、その内の63億tがすでに廃棄物となっているそうです。そして驚かされたのは廃棄物となった63億tの内の79%が、埋立処分されたか海洋などの自然環境に投棄されているということでした。このままのペースでいくと海に入り込むプラスチックの重さは、2050年には魚の総重量を超えるとも言われているそうです。

改めて自分の生活を見直してみてもどれだけプラスチックに囲まれているのかを考えさせられます。お店で購入したものを入れるレジ袋、さまざまなプラスチック容器、子供のおもちゃなどあげればキリがありません。

プラスチックの利点は「水に濡れても丈夫で安価である」ことですが、裏を返せばこれが廃棄物となった際の大きなデメリットとなります。自然分解性が極めて低いプラスチックは不法投棄されたのち、やがて海にたどり着きます。形は微小化していきますが、分解されないため、目に見えないサイズまで小さくなり、いわゆる「マイクロプラスチック」となります。今各地の海でこの濃度上昇が問題視されています。水生生物がプランクトンと一緒に体に取り込んだ



白浜海岸の風景

「マイクロプラスチック」は生物濃縮を繰り返し、やがては人間の口に戻ってきます。人間も含めた生物の健康にどういった影響があるかはまだ多くのことが明らかになっていないようですが、専門家はこの状況に警鐘を鳴らしているそうです。

昔は紙製の袋が多く使われていましたが、利便性やコストの面からその多くがプラスチックに置き換わりました。その置き換えを進めてきた方たちはこうなる未来を予測していたのでしょうか。大きさに言えば今の子供たちが大人になる頃には海の魚は食べられなくなってしまうかもしれませんし、その前に汚染の影響で海の生き物がいなくなってしまうかもしれません。私は趣味で魚釣りをすることもあり、定年後も綺麗な海でおいしい魚が釣れる環境が残っていてもらわないと困ります。この現況に気付いた方たちが紙袋や紙製品にもう1度目を向けてくれることを切に願うばかりです。



漂着したプラゴミ



豊かな海で釣りあげたアオリイカ

Feeling the Wind

風を感じて

— 自然を守る取り組みで、恩恵を受ける —

高岡工場は富山の西部に位置し、山、川、海の自然豊かな地域です。山は能登半島国定公園の一角を占める二上山、川は小矢部、庄川と言うような、一級河川が流れこみ、海は天然のいけすと言われている富山湾が広がり、海産物に恵まれています。私の住む伏木は万葉時代、大伴家持が国守として赴任した場所ですが、その間多くの歌が詠まれ、万葉かるたとして地域のかかるた大会にも、それらが使われています。

近くには蓮如が開祖（正確には5代の顕幸の時に現在の伏木に）と言われる勝興寺があり、現在2021年完成の予定で平成の大修復が行われているところです。天気予報でよく出る地名「高岡伏木」の測候所も、そのすぐ近くにあります。小さい頃は山ではカブト虫、クワガタ虫、セミ、トンボとりで野山を走り回っていました。また海では近くの国分浜でキス釣り、夏になると真っ黒になって泳いでいました。富山名産ホタルイカも、小さい頃は浜辺によく打ち上げられていたのを思い出します。一時は公害



ヨットレース風景

「世界で最も美しい湾クラブ」とは

ユネスコが支援するNGO（非政府組織）で、世界遺産のフランス・モンサンミッシェル湾やベトナム・ハロン湾など世界の名立たる湾が加盟し、湾を活用した観光振興と資源の保全を目的に活動しています（1997年設立、本部はフランス）。富山湾は、海越しに3,000m級の

問題で泳げない時期もありましたが、当社をはじめ各企業や、地域の方々の努力により、すっかりもとに戻っています。

定年を間近に控え、老後の楽しみの一つとして4年前にヨットを始めました。自然の力を受け海原に出る爽快感は格別です。富山湾から見る北アルプスも雄大に映り、人間もちっぽけに見えて、いやなことなど忘れ、リフレッシュできる時間となっています。

富山湾は、2014年10月に「世界で最も美しい湾クラブ」37番目に加盟、来年はその国際大会の総会が富山県で開催される予定になっています。2015年からは、タモリカップ（ヨットレース）を誘致し、今年で4回目が行われました。

私も、たまたまタモリカップに参加することができ、今年は念願のクラス別優勝とパレードにおけるパフォーマンス賞をいただくことができました。

ヨット技術も難しく、まだまだですが、蜃気楼の出る海を時々、風に任せてのんびりセーリングしたいと思います。

草木は太陽の恵みによって森となり生物を育み、土に戻ります。土にしみこんだ養分は降雨によって地下水となり、栄養分が浸みこんだ河川水はやがて海に流れ込みます。それらが富山ブリ、ズワイガニのような海の恵みをもたらしてくれています。この美しい富山の山、川、海の自然バランスの大切さ、ありがたさ、循環環境の重要性を心に刻んで、今後も積極的に環境活動に加わっていききたいと思います。



ヨットハーバーから望む北アルプス



ヨットレース風景



雨晴海岸から望む北アルプスの朝日

永川 昌之
Masayuki Egawa
高岡本社
安全衛生統括部
兼 環境管理統括部



Learning the Importance of Conserving
Satoyama at Chuetsu Pulp & Paper's Forests

「中パの森」で学ぶ、 里山保全の大切さ



間伐・枝打ちの実演見学

富山県の中パの森で2017年10月、地元の小学5年生、51名を対象に自然体験学習会を行いました。高岡市役所と地下水保全活動を行うボランティアの方と連携、オリエンテーリングを通して森林について楽しく学習しました。枝打ちや間伐がなぜ必要か、説明を聞きながら実演を間近で見学し、森の中を歩きながら数々のミッションをこなすことで、森林の公益的機能について、自然に学ぶことができる仕組みです。中越パルプ工業のマスコット「ちくりん」も登場して児童たちに大人気でした。

地下水の守り人、岡山さんの話に耳を傾ける児童たち



熱心に年輪を数える様子

ミッションを全てクリア

鳥の餌台、バードフィーダー

● 間伐・枝打ち

実演見学では、高い木に登り枝打ちをしたり、電動ノコギリを使った間伐など、迫力のある作業に、児童たちから驚きの声があがりました。鳥の餌台となる、ペットボトルでできたバードフィーダーの設置も見学しました。

● 割りばし回収活動

小学校から段ボール箱一杯に入った、割りばしの贈呈式が行われました。中越パルプ工業から、お礼としてコピー用紙が贈呈されました。

● オリエンテーリング

地図を頼りに、班に分かれて協力しながら中パの森を探検しました。隠されたミッションは全部で7つ。竹の重さ当てや木の年輪を数えるクイズの他、松ぼっくりや栗を拾ったり、枝木を運ぶ手伝いをするなど、実際に植物に触れながら、次々とミッションをクリアしました。自分の足で歩くことで、森林が身近に感じられるとともに、公益的機能や生物多様性についての理解がより深まりました。

Efforts Toward Biodiversity Through
CHUETSU PULP & PAPER's
Main Business

中越パルプ工業の 本業を通じた 生物多様性への 取り組み



国産竹を原料として 有効活用した紙「竹紙」

国産竹 100%を原料としたオリジナル紙ブランド「竹紙」を製造しています。竹は材料としての硬さや水分の多さのほか、中が空洞のため運搬効率が低いなどの問題から、製紙原料としては不向きとされていましたが、地域からの強い要望を受けて、10余年の試行錯誤の結果、1998年から製紙原料として活用しています。この取り組みで年間約2万トンの竹を集荷しており、美しい竹林の維持、隣接する森林や里山、生物多様性保全、放置竹林問題という社会的課題の解決に貢献しています。



整備された竹林



森と里山を守り、 人と人をつなげる紙 「里山物語」の取り組み

「里山物語」は、証明書付きの間伐材をクレジット方式で紙の原料とし、生物多様性の宝庫である里山を守るための寄付金が付加された、独自の環境配慮型印刷用紙です。寄付金は協賛するNPO法人里山保全再生ネットワークが、里山で社会貢献活動に取り組む団体を選定して寄付しています。

※ 里山物語
<https://www.satoyama-paper.net/>

Special Contents 02 Efforts to Preserve Biodiversity

02 生物多様性保全の 取り組み

森の大切さを身近に感じることでできる「中パの森」。
企業の森作りを通じて、エネルギーあふれる森林を原材料として消費
するだけでなく、豊かな資源の場として、研修やオリエンテーリングを行い、
地域の方々に森林の公益的機能を体感していただいています。

後日届いた、
児童からの感謝の言葉

Company Forestation Activities

企業の森作り活動

豊かな森林があるからこそ、紙の生産に使用する水が生まれます。中越パルプ工業は、森林の公益的機能の恩恵を受ける製紙メーカーとして、社会的責任を果たすべく、さまざまな取り組みをしています。鹿児島県に8.5ヘクタール、富山県に2.7ヘクタールの「中パの森」を開設し、持続可能な里山と生物多様性の保全に注力しています。森の公益的機能の体感の場として、近隣住民の方々に公開し提供することで、地域の方々との共生や社会貢献を行っていきたくと考えています。



富山県の中パの森

03

Special Contents 03 Raw Material Procurement Efforts

原材料の調達に関する取り組み

当社では「原材料調達指針」を制定し、合法性を遵守した持続可能な森林資源の有効利用に努めています。

Procurement of Materials under Legal Observance

合法性を遵守した原料調達

当社が原料として使用する木材チップは、当社の「原材料調達指針」に沿って、違法伐採を排除し、伐採地域の森林経営の環境面と社会的健全性に配慮した調達を行っています。合法証明システムを構築し、調達先ごとに伐採地域、伐採した森林の形態、対象となる法令などをトレーサビリティレポートにより把握しています。さらに、2017年5月より施行された「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（クリーンウッド法）」に基づき、日本製紙連合会を通じて登録実施機関への登録を行っています。この合法証明およびクリーンウッド法に基づく登録に関しては、年に一回、日本製紙連合会の監査を受け、問題のないことを確認しています。

原材料調達指針

1 森林資源の保護育成と地球環境への貢献

再生可能な資源である森林を保護育成し、健全な林産業経営を営んでいるソースからの調達を通じて地球環境および地域経済への貢献を目指します。

2 合法性遵守と持続可能性の維持

現地の法律や規則を遵守し、持続可能な森林経営が営まれている森林から生産された木材のみを原料として使用します（違法伐採材は使用しません）。

3 トレーサビリティの確保

木材の合法性、持続可能性を確認するシステムを構築、安全な原料の調達に努めます。

4 森林資源の有効活用

製材残材、間伐材、家屋解体材などの木質原料を積極的に利用し、資源の有効活用に努めます。

5 植林事業の積極推進

植林事業を積極的に推進するとともに、植林木原料比率を高めていきます。

6 森林認証システムの積極活用および推進

森林認証システムを積極的に活用し、高保護価値林が保護され、伝統を守る権利または市民権が侵害されていない、適切に管理された森林から生産された木材の調達に努めます。

7 情報の公開

木材原料調達ソースの情報を開示します。

Utilizing Sustainable Forestal Resources

持続可能な森林資源の利用

持続可能な森林資源の利用のため、当社はFSC®、PEFCの森林認証制度により、適切に管理された森林からの木材チップの調達を行っています。認証材は、木材チップの生産を行うサプライヤーから商社を介して当社が原料を調達するまで、製造・流通の全ての段階で取引先がCoC認証を取得しており、当社も第三者機関による審査を受けたうえで、FSC®やPEFCの認証製品としての販売を行っています。

管理木材

下記表の5つの木材カテゴリには属さない、またはこのカテゴリの木材である可能性は低いと確認された木材

1	違法伐採された木材
2	伝統的な権利および市民権を侵害し伐採された木材
3	管理活動により高い保護価値が危機に瀕している森林から伐採された木材
4	人工林（プランテーション）または非森林用途に転換されつつある森林から伐採された木材
5	遺伝子組み換え樹木が植栽された森林からの木材



【FSC®】Forest Stewardship Council®

FSC®は環境団体、林業者、木材取引企業、先住民団体、地域林業組合などの代表者から構成されるNPOで、国や地域に関わらず、同じ基準・ルールを適用し、基準に則した森林管理が行われていることを評価、認証しています。



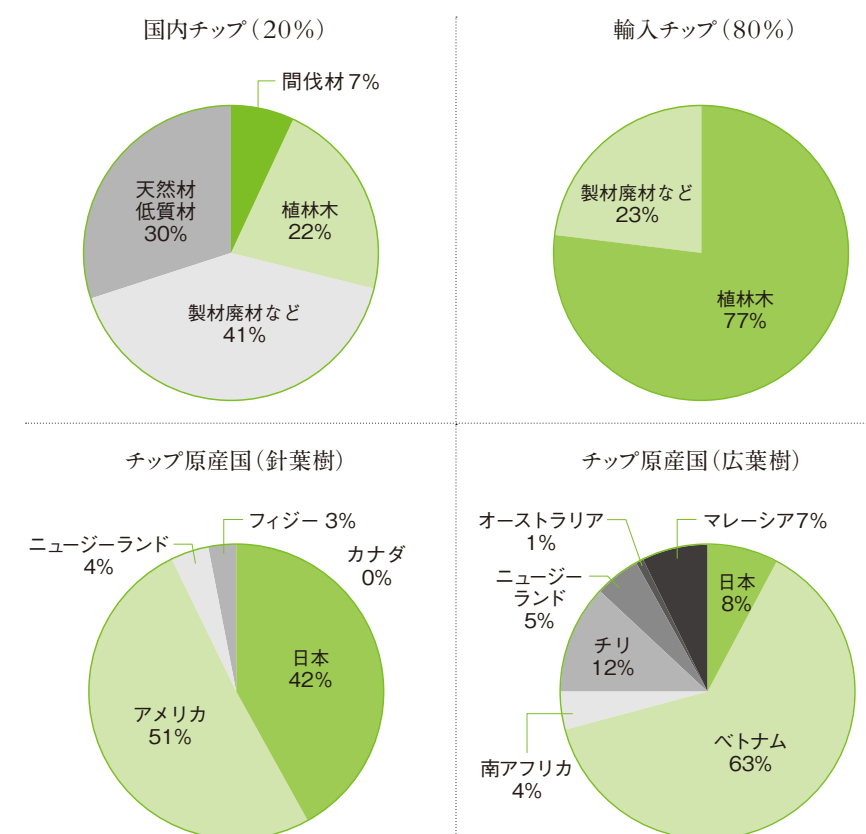
【PEFC】Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes

PEFCは各国の独立した持続可能な森林認証規格制度がお互いの規格を承認することを目的に加盟・運営するNGOです。ISO方式の認証手順を採用し、各国・各地域が有する独自の森林認証制度が共通する国際的で持続可能な森林管理レベルに達していることを評価し、相互に承認しています。

Wood Chip Procurement

木材チップの調達構成

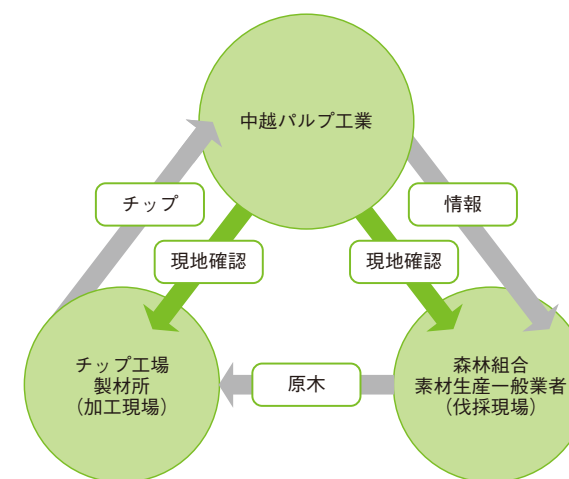
当社では、使用するチップの20%を国内から、80%を海外から調達しています。国内チップは製材廃材や低質材など未利用材を有効的に利用し（原材料調達指針4）輸入チップは主に植林木由来のものを使用しています（原材料調達指針5）。



System for Inspecting Domestic Chip Suppliers

国内材チップ供給者の監査体制

当社では、国内材チップに関わる伐採現場や加工現場において、法律やその地域の規則を遵守し、適切に管理された森林由来の木材が使用されているかなどについても、外部（日本製紙連合会）の監査にて確認しています（原材料調達指針2）。



Making Use of Thinned Wood and Other Unused Resources

間伐材など未利用材の利用

当社では証明書付間伐材の集荷を積極的に行い、間伐材認証製品を製造しています。加えて鹿児島県にある川内工場では、林内などで放置されていた間伐材や林地未利用材を燃料としたバイオマスボイラーを稼働しています。地域社会と一体となったこれらの取り組みが、健全で豊かな森林を次世代に引き継ぐための整備や、森林関連産業の活性化による新たな雇用創出につながっています。2017年度にバイオマス発電で使用した間伐材および林地未利用材の比率は91.5%となっております（原材料調達指針4）。

環境経営の推進

Promoting Environmental Management



SDGsとの
かわり

中越パルプ工業の環境に関する基本方針

The Basic Environmental Policy of Chuetsu Pulp & Paper Co., Ltd.

01 基本理念 Fundamental Philosophy

中越パルプ工業は、地球的視野に立って「環境にやさしい企業活動」を基本に、地球規模での環境保護と持続的発展が可能な豊かな社会の実現を目指して努力いたします。

02 基本方針 Basic Policy

- (1) 資源の保護と有効利用を推進する。
- (2) 環境負荷の少ない新技術の開発と導入および新製品の開発を図る。
- (3) 地球環境の維持と向上に努める。

03 行動方針 Course of Action

(1) 地球温暖化防止対策

- ① 化石燃料の削減と代替エネルギー利用を推進する。
- ② 省エネルギー技術・設備の開発・転換を推進する。
- ③ 廃棄物エネルギーの有効利用を図る。
- ④ 環境負荷の少ない物流の合理化を推進する。
- ⑤ クールビズ、ウォームビズの推進と不要な照明の消灯など、節電に努める。

(2) 森林資源の育成と保護

- ① グリーン購入法に基づく違法伐採材の使用を禁止し、合法性・持続可能性のある木材のみ使用する。
- ② 合法性・持続可能性を確認するシステムの構築と運用。
- ③ 植林による森林資源の育成と製材残材・間伐材・廃材などの木質資源の有効利用に努める。

(3) 古紙利用の適正化推進

- ① 地球温暖化を考慮して、製品への古紙配合率の適正化を図る。
- ② 古紙利用製品の開発と販売を促進する。
- ③ 古紙処理技術の研究・開発を図る。

(4) 地球環境の維持・向上

- ① 法的規制値の遵守はもとより、自主管理値を設定しその達成を図る。
- ② 環境管理レベルの維持・向上に努める。

(5) 環境負荷化学物質対策

- ① 環境負荷化学物質を原材料および製造過程で意図的に使用しない。
- ② 使用薬品類は、調達時にその安全性を確認する。
- ③ 副産物として発生する環境負荷化学物質の削減に努める。
- ④ 業界と連携して環境負荷化学物質対策を推進する。

(6) 廃棄物の削減と有効利用の推進

- ① 廃棄物発生量の低減および燃焼による減量化を推進する。
- ② 焼却灰の有効利用技術の開発と用途拡大の推進を図る。
- ③ 分別回収による再利用の促進を図る。

(7) CSR(企業の社会的責任)活動の推進

- ① 社内外のコンプライアンスの遵守。
- ② 社員に対する啓蒙活動の推進。
- ③ 社内外に対する適切な情報提供に努める。
- ④ 環境負荷の少ない新製品の開発、新技術開発・導入を推進する。
- ⑤ ステークホルダーとのコミュニケーションに努める。
- ⑥ 地域清掃、植林、資源回収、インターンシップなどのCSR活動を推進する。

環境への取り組み

Action for Environment

環境基本方針のもと中越パルプ工業グループ全体で、環境行動目標の達成に向け取り組んでいます。

環境目標と活動状況

Environmental Aims and Activities

行動項目		2017年度の活動実績および活動状況
1	地球温暖化防止対策 (掲載ページ: P29)	●再生可能エネルギー（黒液、汚泥、木質燃料、パーク）を積極的に活用し、化石燃料使用量削減に努め化石エネルギー起源の温室効果ガス排出量削減を図りました。 ・化石エネルギー起源CO ₂ 排出量: 376千t/年、2005年度比42.6%削減 ・化石エネルギー起源CO ₂ 排出原単位: 0.51 t-CO ₂ /t、2005年度比28%削減
2	森林資源の育成と保護 (掲載ページ: P24-25)	●持続可能な資源の調達および有効活用に努めました。 ・原材料調達指針に則り、管理された森林からの木材調達を行っています。 2017年度 FSC®認証材調達量: 191千BDT/年、PEFC認証材調達量: 30千BDT/年 ・証明書付の国産間伐材を積極的に使用しています。
3	古紙利用の適正化推進 (掲載ページ: P13)	●古紙配合の適正化に努めています。 ・古紙パルプなど配合率管理手順書を作成し、配合率の適正化に努め、定期的に配合率の適正性を確認しています。
4	環境規制値の遵守 および環境管理体制の強化 (掲載ページ: P37)	●2017年度も環境事故および環境苦情ゼロに努めました。 ・長期停止前に非正常作業に関する環境教育、遵守事項の掲示など、万全の監視体制で停止に臨んだ結果、工場外部へ影響を与える環境事故の発生はありませんでした。 ・環境マネジメントシステム14001の認証継続と維持に努め、環境管理の強化を図りました。 ・緊急事態訓練を実施し、手順書の確認と不適合箇所を洗い出しました。
5	環境負荷化学物質対策 (掲載ページ: P13)	●使用薬品の安全性をMSDS（製品安全データシート）により確認しています。 PRTR対象物質に関しては、種類と使用量を把握し、切り替え可能なものから非PRTR品へ切り替えています。 ●PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の適正処理に努めています。 ・高濃度PCBについては、中越パルプ工業グループ全体で無害化处理が完了しています。 ・微量PCBについては、中越パルプ工業グループ全体で含有調査が完了しています。 現在、微量PCB含有機器の適正処理を計画中です。
6	産業廃棄物の削減と 有効利用の推進 (掲載ページ: P28)	●産業廃棄物の有効利用を推進し、循環型社会の形成に努めました。 ・産業廃棄物発生量: 41千t/年、最終処分量: 0.5千t(有姿)/年、有効利用率: 99% ・廃プラスチック類の分別強化を推進し、産業廃棄物から有価物化への転換を図りました。
7	CSR活動の推進 (掲載ページ: P38-39)	●地域社会との共存共栄を図り、誰からも愛され信頼される企業を目指しています。 ・地域の清掃活動に積極的に参画しました。 ・出前授業を行い、事業内容や環境保全の取り組みを紹介しました。 ・社有林を開放し、自然体験学習会を開催しました。（68人の方々に参加いただきました）
	ステークホルダーとの対話 (掲載ページ: P40-41)	●CSRレポートの発行やウェブサイト上での公開、エコプロダクツ・環境フェアなどの出展を通して、ステークホルダーとのコミュニケーションを推進しました。 ・地域モニター懇談会や工場見学会を通して、地域の方々の生の声を聴取し、地域社会との信頼関係の構築に努めています。 ・住民の皆さんや児童・生徒、当社製品をご愛顧いただいているお客さまを中心に、工場見学を積極的に受け入れ、数多くのご意見や感想をいただいています。

産業廃棄物の有効利用推進

Promoting the Effective Use of Industrial Waste

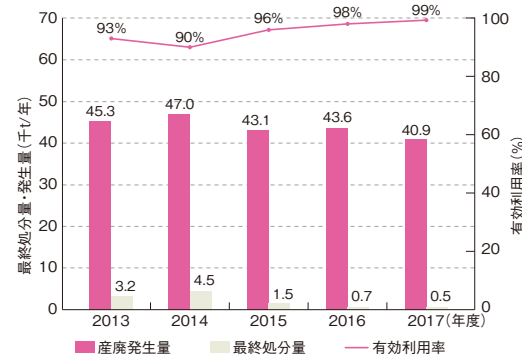
再資源化率の向上を図り、循環型社会の形成に努めます。



産業廃棄物の再資源化

Industrial Waste Recycling

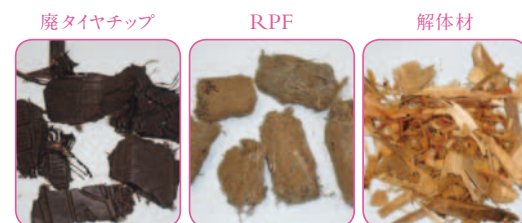
中越パルプ工業グループの2017年度の産業廃棄物発生量は約40.9千t / 年で対前年度2.7千t / 年減少しました。また、最終処分量は対前年度で0.2千t減少し、有効利用率も99%となりました。最終処分していた廃棄物の循環利用を進めたことで、有効利用率が増加し、最終処分量が減少しました。



循環型社会の形成

Forming a Recycling-Oriented Society

中越パルプ工業グループでは、非化石燃料の有効利用を進めています。建築用廃材や解体材を主とした木質燃料、廃タイヤおよび廃プラスチックを原料にしたRPFなどの産業廃棄物由来燃料を利用し、工場内で使用する電気や蒸気を作り、省エネルギー推進に努めています。他業種から排出される産業廃棄物を積極的に使用し、再資源化に貢献しています。



多量排出者責任

Responsibility as a High Quantity Waste Discharger

中越パルプ工業グループでは、自社で処分できない産業廃棄物を外部へ処理委託しています。処理委託した廃棄物が適正に委託業者のもとに運搬されているか、委託先で適正に処分されているか、未処理のまま放置されていないかなど、抜き打ちの監査を実施しています。2017年度は、21の収集運搬業者および処理委託業者を訪問し、委託した廃棄物が適正に収集運搬・処理されていることを確認しました。



監査風景

廃棄物の分別・処理に関する教育

Education on the Classification and Disposal of Waste

構内に入出入りする関係会社従業員・臨時作業者を対象に、定期的に廃棄物教育を実施、廃棄物の分別・廃棄方法の再確認を行っています。

地球温暖化防止対策

Global Warming Countermeasures

中越パルプ工業グループでは、バイオマスエネルギーの積極利用による化石燃料の削減のほか、省エネルギーの推進により温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

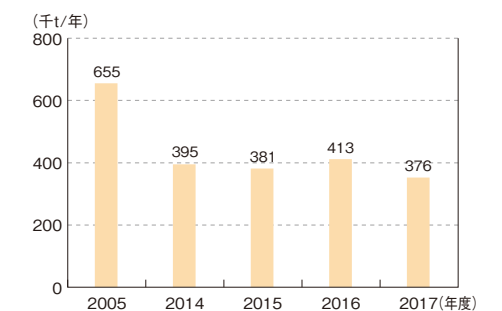


CO₂ 排出量削減の取り組み

Efforts for Reducing CO₂ Emissions

2017年度の化石エネルギー起源CO₂排出量は、2005年度比で279千t削減、削減率は42.6%となりました。新エネルギーボイラによる廃棄物エネルギーの利用、木質燃料ボイラによる木質燃料の利用、回収ボイラによる黒液*の利用や効率的な運転方法の実施などにより、化石エネルギー起源CO₂排出の低減に努めています。*黒液：パルプ製造時に発生する木材中の有機分が含まれる黒色の葉液

化石エネルギー起源 CO₂ 排出量

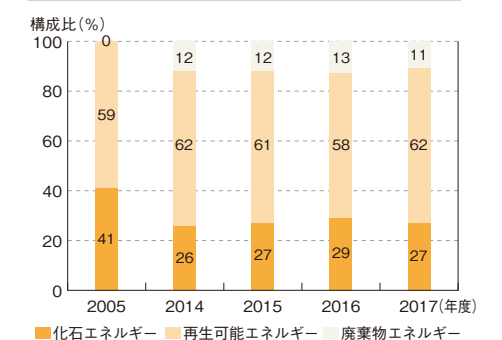


再生可能エネルギー構成比率

Renewable Energies Component Ratio

バイオマスエネルギーを積極的に利用し、化石エネルギーからの転換を進めています。再生可能エネルギーの中でも黒液がエネルギー源の半分以上を占めています。そのほかにも工場内で発生する製紙汚泥、未利用材などの木質燃料、RPFや廃タイヤなどの廃棄物エネルギーの使用により、2010年度以降、再生可能エネルギーと廃棄物エネルギーの合算で70%以上を維持しています。

化石・再生可能エネルギー・廃棄物構成比率



グリーン経営認証の取得

Acquiring of Green Management Certification

中越パルプ工業グループの物流部門では、中越物産、中越ロジスティクスでグリーン経営認証を取得し、エコドライブ、アイドリングストップなどの継続的な実施により、燃費の向上やトラック輸送におけるCO₂排出量の削減に努めています。グリーン経営認証制度とは、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が認証機関となり、グリーン経営推進マニュアルに基づき一定レベル以上の取り組みを行っている事業者に対し認証・登録を行うものです。

HUMAN CLOSE-UP | 高岡工場 施設動力部 技師 高井 聡

「二酸化炭素排出抑制の取り組み」

高岡工場では2016年6月より、効率の向上による化石エネルギー削減、および二酸化炭素排出量削減を目的とした4RB1缶1基操業をスタートさせました。現在ではパルプ市況の恩恵もあり、動力課ではオイルレス操業を確立しつつありますが、工場の化石エネルギー起源CO₂は約6割が買電によるものになります。今後は省電力などの推進、さらには再生可能、廃棄物エネルギーの有効利用による発電比率向上を目指し、微力ながら地球温暖化防止に繋がればと思います。



生産活動に伴うマテリアルバランス

Material Balance with the Production Activity



中越パルプ工業では、生産活動に伴う環境負荷を把握し、資源消費と環境への影響を最小限にするために、さまざまな取り組みをしています。

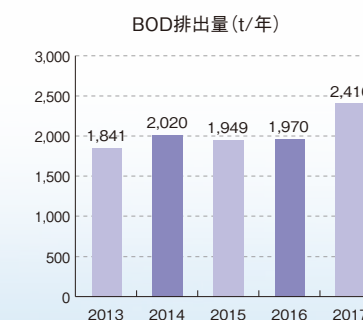
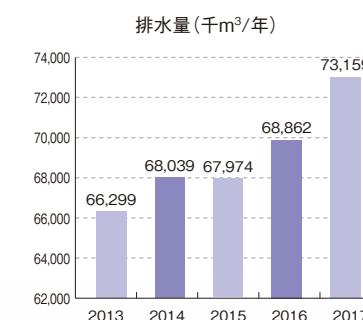
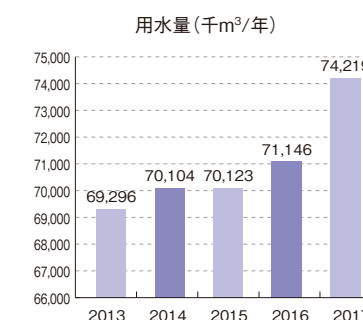
- 使用エネルギーの大部分をパルプ製造工程から出る廃液（黒液）などの再生可能エネルギーで賄っています。
- 原材料では、古紙や竹、間伐材なども使用し、木材資源の消費節減に取り組んでいます。
- ばいじんは、主にセメント原料、土壌改良材、路盤材などにも有効利用されます。

主要な環境データ

Main Environmental Data

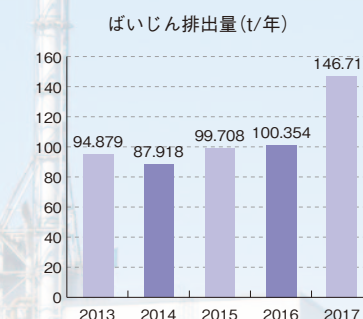
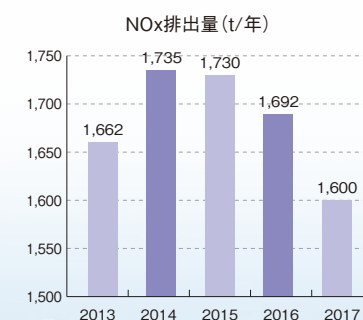
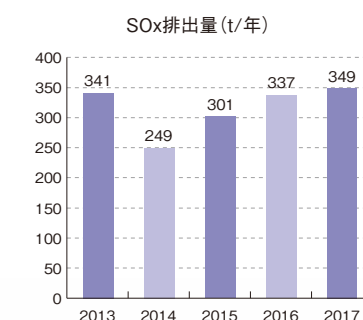
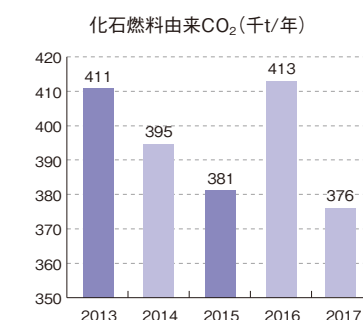
水質関連データ

Water Quality Data



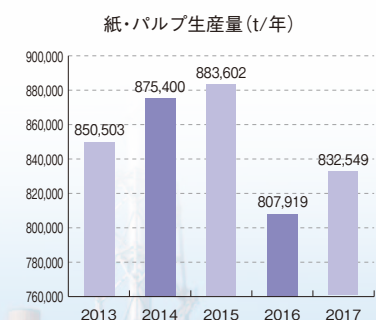
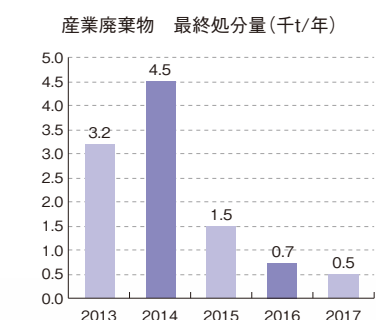
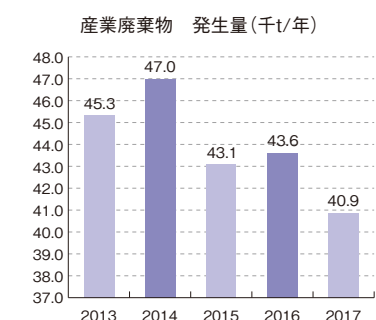
大気関連データ

Air Quality Data



産業廃棄物関連データ

Industrial Solid Waste Data



・BOD…水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものの。数値が大きいくほど、その水質は悪いと言えます。

・SS…水中に浮遊している物質の量を表したものの。数値が大きいくほど水の濁りが多く、水底への堆積物の原因となります。

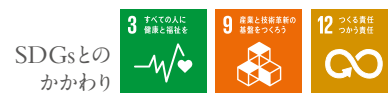
・SO_x…化石燃料中に含まれる硫黄が燃焼する際に発生する化合物。酸性雨の原因となります。

・NO_x…ボイラーなどで燃料を燃焼する際、空気中の窒素や燃料中の窒素が酸素と反応し発生する化合物。光化学オキシダントの原因となります。

製品の安全への対応

Dealing with Product Safety

安全・安心な製品の提供を第一に考え、お客さまとのかかわりを大切に、より良い製品の提供に努めています。



製品安全憲章

Product Safety Charter

お客さまに、製品を安心して使用していただくために、「製品安全憲章」を制定し製品の安全性を向上させる取り組みを進めております。

製品安全憲章

中越パルプ工業及び関連会社は品質管理体制の一層の充実をはかり、お客様に安全な製品を提供し、お客様が安心してご使用いただけるように次のことを実施していきます。

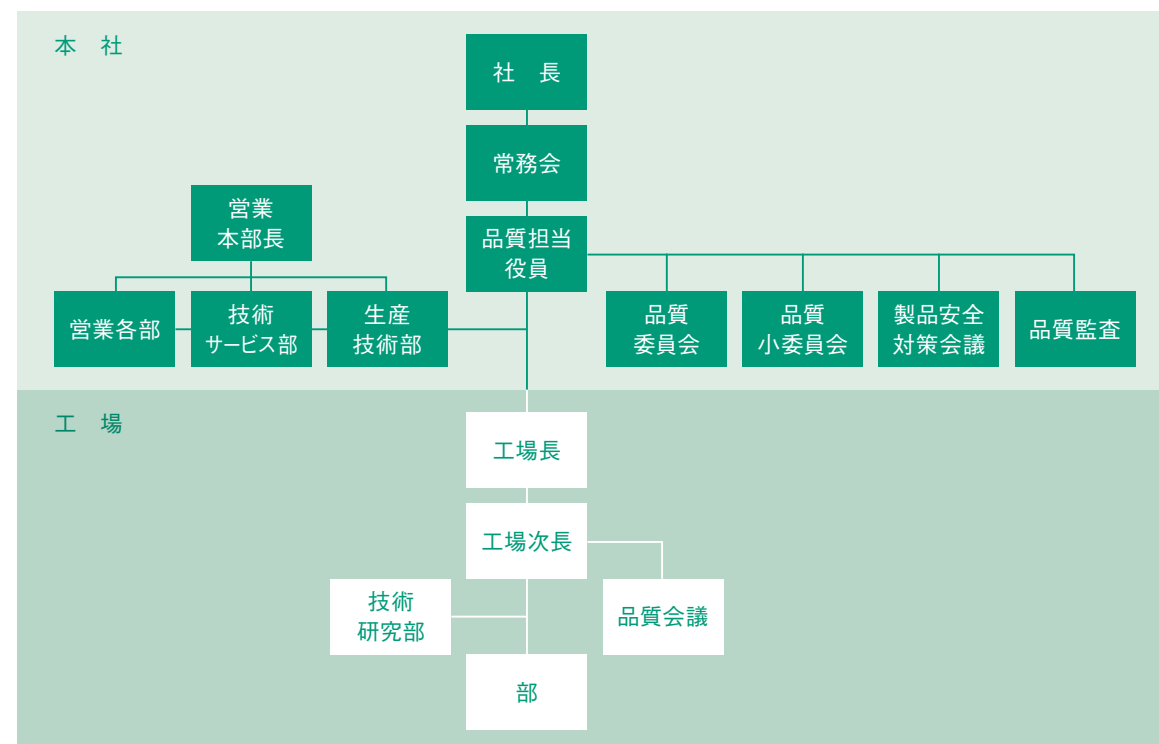
- 一、最新の技術により、安全を確認した製品を提供します。
- 一、製造工程の安定に努め、安定した安全な製品を提供します。
- 一、製品の正しい使用方法と製品の安全に関する情報を適時・適切に提供します。

品質管理体制

Quality Control System

お客さまからの情報や品質課題に迅速に対応するため、社長をトップとする品質管理体制を設け、お客さまに安心して使用して頂ける製品と満足していただけるサービスの提供に努めています。

中越パルプ工業 品質管理体制図



製品安全の取り組み

Product Safety Efforts

当社品質管理体制において、化審法、食品衛生法、PRTR法などの法令遵守、規格・規定に基づき、製品の安全性を検証、管理を行っています。

品質会議

製造現場でのものづくりの情報、お客さまから寄せられた情報をもとに、各工場において月一回の品質会議を開催し日常の品質管理活動をチェックし、推進しています。

品質会議の主な内容

- 品質の現状と問題点
- ユーザー指摘事項の内容と原因および対策
- 重点品質項目
- 製品の安全に関する事項

食品用途用紙管理規則

特に製品安全性が求められる食品用途製品については、食品用途製品管理規則を制定しお客さまに安全な製品をお届けするよう努めています。

食品用途製品管理規則の主な内容

- 原材料の安全性確認
- 製品受注時の注意事項
- 食品用途製品の法規制項目および自主規格
- 設備衛生管理
- 製品安全保証

品質監査

製品検査が正確に行われているか、検査結果が社内規程に適合した方法で取り扱われて、出荷判定されているか、製造工程での各規程の遵守状況などについて社内監査チームにより定期的に品質監査を実施しています。

防虫委員会

過去工場には防虫委員会を設置し、製品の衛生管理を図っております。外部コンサルタントの指導を受けながら、設備改善はもとより防虫教育を定期的に実施し衛生的な製品づくりに努めています。

ユーザーによる古紙監査

定められた手順により古紙配合率が遵守されているか、古紙配合検証制度に基づいた監査を受けています。お客さまに安心してご使用頂ける製品を生産しています。



古紙監査風景

働きやすさと個人の能力を 発揮する環境を整える取り組み

Creating a Work-friendly Environment Where Individuality Can Flourish

中越パルプ工業グループでは、従業員一人ひとりが個々の能力を発揮し、働き甲斐と活力ある風通しの良い風土づくりに努めています。

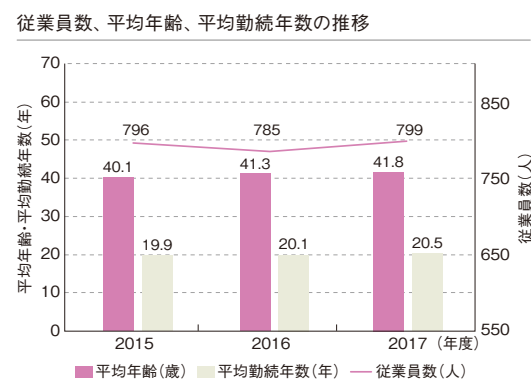


従業員の雇用について

Employment Data

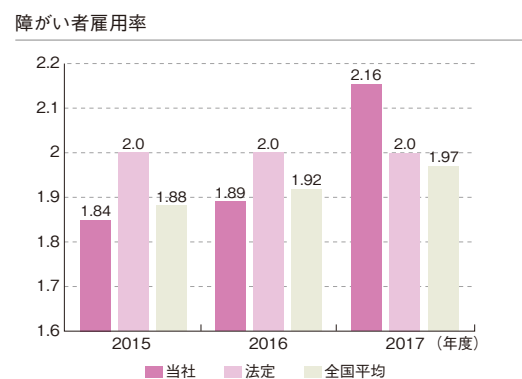
従業員数の推移、平均勤続年数、平均年齢

2017年度末の中越パルプ工業の全従業員数は799名、平均年齢は41.8歳、平均勤続年数は20.5年となっています。



障がい者雇用率の推移

2017年度の障がい者雇用率は「2.16%」となり、法定雇用率の2.0%を達成しました。2018年度からは、法定雇用率が2.2%に引き上げられるため、障がい者雇用の促進を継続していきます。



育児休業

2016年度は3名、2017年度は1名の出産した全ての女性従業員が、育児休業を取得しています。また、2017年度は男性従業員1名が育児休業を取得しました。復帰後も従業員が安心して子育てができるように、会社と職場でしっかりとサポートしています。

HUMAN CLOSE-UP | 高岡工場 技術研究部 主任 岩黒 竜也

「育児休業を取得して」

長男が生まれた時も、積極的に育児に携わりたかったのですが、勤務しながらの育児には限界があり、限られた部分でしか妻をサポートできない現実がありました。今回、次男が誕生した際には、職場や関係の方々のご理解をいただき、育児に専念できる貴重な時間を持つことができました。一番手のかかる大変な時期に妻子のそばにいてあげられたことで、生活面が安定し、職場復帰した後も集中して仕事に取り組めるようになりました。この経験をいかして、より一層ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいけたらと思います。



ワーク・ライフ・バランスへの取り組みについて

Efforts for Improving Work-Life Balance

中越パルプ工業では、従業員一人ひとりが仕事と家庭を両立させることができ、働きやすい環境をつくることによってその能力を十分発揮できるように、各種制度の周知・徹底に努めています。

制 度	内 容
出産休暇	産前42日、産後56日の休暇を取得できます。
育児休業	子が1歳に達するまで(子が保育園に入所できない場合は2歳まで)取得できます。
育児短時間勤務などの措置	満3歳未満の子を養育する場合、所定労働時間を6時間まで短縮し、所定外労働を免除します。小学校就学前の子を養育する場合、深夜業を免除し、所定外労働の上限を設けています。
子の看護休暇	小学校就学前の子の負傷・疾病により世話をするために、または当該子に予防接種や健康診断を受けさせるために、年間5日を限度に取得できます。
保存年休	無効となった年次有給休暇を私傷病・介護・看護による休業に使用できます。
介護休業	対象家族1人につき連続する1年の範囲内の期間で取得できます。
勤務時間短縮などの措置	介護のため、6カ月の範囲内で勤務形態に応じ、勤務時間を1日6時間まで短縮、配置転換を行います。要介護状態にある対象家族を介護するために、深夜業を免除し、所定外労働の上限を設けています。
介護休暇	介護や世話のために年間5日を限度に取得できます。
ボランティア休暇	社会貢献活動を目的に、連続3日以内、かつ年度につき2回まで取得できます。
ノー残業デー	毎週水曜日を定時退社としています。

従業員の健康管理について

Employee Health Management

「健康経営優良法人2018～ホワイト500～」に認定されました。

「健康企業中パ」の実現を目指して、社長の健康宣言のもと、会社・労働組合・健康保険組合が三位一体となって「健康経営」を推進する基盤を構築しています。これまでの取り組みが評価され、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人～ホワイト500～」に2年連続で認定されました。



健康管理に関する主な取り組み

- 安全衛生ニュースの発行
安全衛生管理室では、年間約200号の「安全衛生ニュース」を配信し、安全点検のお知らせや防災予防に関するデータ紹介のほか、病気やけがの予防、メンタルヘルスに関する情報提供を行い、従業員の健康意識向上に努めています。
- インフルエンザ予防接種率の向上
各事業所内で、インフルエンザの集団予防接種を行っています。また、外部医療機関で予防接種を受けた従業員とその家族に対しても、健康保険組合を通して補助金を支給し、接種率の向上に努めています。
- 中パ健康フェスタの開催
毎年、会社と健康保険組合、労働組合が合同で、従業員とその家族を対象にした健康啓発イベント「健康企業中パフェスタ」を全社で開催しています。川内地区ではヘルシークッキング講座、東京本社・各支社営業所ではウォーキング講座が行われました。

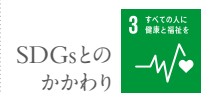


川内地区では45名の従業員とその家族が参加しました

労使で取り組む安全活動

Safety Activities Performed by Labor and Management

中越パルプ工業グループで働く仲間たちの健康と安全を守るため、さまざまな活動を展開しています。



全社安全衛生委員会

Company-Wide Safety and Health Committee

11月末には、全社安全衛生統括管理者を中心に、各工場労使や関連会社の代表を交え、全社安全衛生委員会を高岡本社で行っています。災害・安全活動の発表を行い相互啓発を図ったり、手順書のビジュアル化の推進などに加え、来年に向けての活動の指針が討議されました。



全社安全衛生委員会風景

防災訓練

Disaster Prevention Drill

火災をはじめとする防災訓練などの非常事態対応訓練を年2回行っています。3月22日には、高岡本社・工場で震度6強を想定した地震想定訓練を行いました。200名を超える従業員、関連会社、協力が会が参加し、連絡体制や避難、警備誘導救護をはじめとする自衛消防組織の機能を確認しました。



防災訓練風景

新入社員 消火器取り扱い教育

Training New Employees on Fire Extinguisher Handling

4月4日、高岡地区新入社員(8名)を対象に、消火器取り扱い訓練を行いました。ほとんどの人が、初めて実噴射を体感したことで、実際に起きた時に慌てずに使いたい、との意見がありました。



新入社員消火器取り扱い訓練

外部教育機関による安全責任者のための安全衛生教育

Safety and Health Education for Safety Controllers by External Educational Institutions

4月18日に高岡地区(高岡工場、二塚製造部)、4月24日に川内地区にて中央労働災害防止協会による管理職、協力会安全担当者への安全衛生教育が行われました。管理者の役割、コミュニケーションスキル、危険を見抜く力など、安全管理者の意識向上に努めています。



中央労働災害防止協会による管理者安全研修

環境教育

Environmental Education

社内外で、年齢に適した環境教育を実施しています。



子どもたちへの環境学習会

An Environmental Study Group for Children

高岡市役所と共同で、高岡市内の保育園を対象に環境教育を行っています。「回収された年賀はがきがどのように紙に再生されるのか」をテーマに、クイズを交えながら分かりやすく説明しています。集めてもらった年賀はがきは工場内で再生し、園児たちにスケッチブックやコピー用紙としてプレゼントしています。資源の回収から紙に再生され、自分の手元に届くまでを示し、リサイクルの大切さを肌で実感してもらいました。



保育園児への環境学習会

鹿児島環境・情報専門学校 環境社会学習

Kagoshima Eco & IT Education's Environmental Sociology

公害防止管理者や廃棄物管理などの国家資格取得を推進し、環境に携わるスペシャリストの育成を目指している鹿児島環境・情報専門学校の生徒37名が、川内工場に来場しました。大気・水質の法令だけでなく、県条例上乗せ基準など実務に関わる環境講義を熱心に聞いていただきました。木質バイオマス発電設備の見学では、若者らしく歓声を上げて楽しそうに学んでいました。



専門学校生徒への講義風景

HUMAN CLOSE-UP | 経営管理本部 部員 溝口 莉英

ボランティア活動に参加して

社会貢献活動の一環として、保育園での環境教育に参加させていただきました。エコやリサイクルについて学習することで、普段保育園で行っている牛乳パック集めやゴーヤによるグリーンカーテンの取り組みなどの活動がより身近に感じられました。また、竹紙を使用した竹紙コブターを一生懸命づくり、楽しそうに飛ばしている子供たちをみて、紙の魅力を改めて感じることができました。小さい子供たちが大人になった時も、紙の存在が大きなものであってほしいと思います。



地域との共生

Symbiosis with the Local Communities

地域社会との共存共栄を図り、誰からも愛され信頼される企業をめざし、さまざまな取り組みを展開しています。



地域プロスポーツの支援および連携した環境活動

Environmental Activities for Supporting and Coordinating Local Professional Sports

富山県を本拠地に活動する、プロスポーツチームを支援し、連携して環境活動にも取り組んでいます。富山GRNサンダーバーズとは、ホームゲームで使用した割り箸を回収いただき、当社で紙の原料とするリサイクル活動を10年続けて行っています。富山グラウジーズ、カターレ富山とは、ホームゲームにて企業PRブースを出店し、当社の環境配慮型製品「竹紙」を用いたワークショップを開催して、試合を盛り上げています。



割り箸贈呈式の様子



竹紙で「かぶりものアート作り」のワークショップを行った

高岡七夕まつりに薩摩川内市の孟宗竹を寄贈

Donating Satsumasendai City's Thick-Stemmed Bamboo for the Takaoka Tanabata Festival

毎年、高岡七夕まつりに、工場のある薩摩川内市から孟宗竹の大竹を運搬し、寄贈しています。行燈や吹き流しで飾られた竹は、まつりの目玉としてメインストリートに設置されます。また、今年は市民の方が自由に短冊に願いごとを書き、飾ることができる「願い短冊コーナー」の短冊に、当社の竹紙短冊を採用いただきました。市民の皆さまは、思いの願いを短冊に託して、飾っていました。

願い短冊コーナーの様子



地域の清掃活動

Local Cleaning Projects

当社では、社会貢献活動の一環として、各工場とも周辺自治体と協力し、地域の美化活動を行っています。二塚製造部では、地域の用水清掃に合わせて、二塚製造部の総排水を放流している桜川の清掃に取り組んでいます。社員有志が川底や側壁の清掃を行いました。



桜川清掃の様子

地元の新小学1年生へオリジナルノートを贈呈

Presentation of Original Notebooks to Local New First-Graders

筑波大学大学院生が、未来をイメージした表紙デザイン「中パオリジナルノート」を、工場所在地の高岡市と薩摩川内市の新小学1年生に贈呈しました。地元地域にある工場で、身近なノートの原紙を作っていることを知ってもらい、良い機会になりました。将来子どもたちが大きくなり、親の世代になっても、「中パのノート」と思い出してもらえれば幸いです。



新1年生へオリジナルノートの贈呈

使用済み年賀はがき回収活動

New Year's Greeting Postcard Collection Effort

今年も、高岡市役所とエコクラブに参加する市内の保育園に、使用済み年賀はがきの回収箱を設置しました。集めた使用済み年賀はがきは、コピー用紙や模造紙に再生し、市内の小中学校と特別支援学校に寄贈しています。資源の有効活用や紙の魅力を伝える取り組みとして評価されています。



使用済み年賀はがき回収箱の設置

朝の活動「半径3mから始めるSDGsアクション」

Morning Activities: Actions for Sustainable Development Goals Beginning with a 3-Meter Radius

東京本社では、2017年春より毎週（現在は毎月）、SDGs（持続可能な開発目標）をテーマに、勉強会を開催しています。若者のソーシャルメディア「オルタナS」とともに、就業前の1時間あまりを社内外の社会人、学生、経営者など多様な参加者と、毎回身近なテーマについて考えます。先進企業の間ではSDGsの取り組み発信が盛んですが、果たして社員一人ひとりに浸透しているでしょうか。グローバルイシューである17の目標を誰もが自分ごととして考えることが本質と考え、誰でも参加できる勉強会をすでに30回以上続けています。



SDGs 朝活の活動風景

中パグラウンド提供

Providing Chuetsu Pulp & Paper's Sendai Grounds

薩摩川内市の少年野球チームである「川内スラッガーズ」の練習場所として、社有地の「中パ上川内グラウンド」を提供しています。川内工場の社有地を長年提供していることから、感謝状をいただきました。「中パグラウンド」は、厚生クラブや社内行事のほか、グラウンドゴルフやソフトボール大会、運動会など地域の皆さまに広く活用いただいています。



少年野球チームからの感謝状

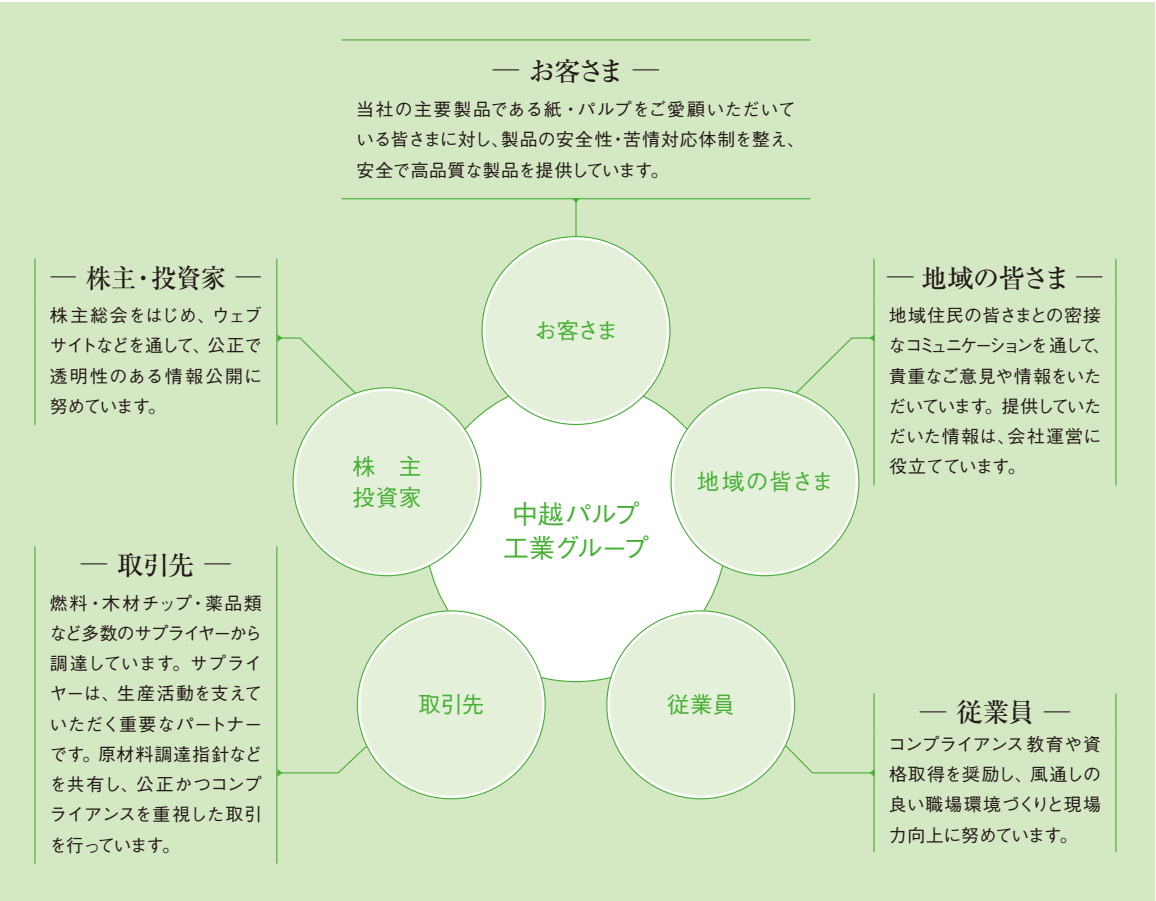
ステークホルダーとの対話を通して

Talks with Stakeholders

積極的な対話と情報公開で、風通しの良い対話に努めています。

中越パルプ工業グループの事業活動は、お客さま・地域の皆さま・従業員・取引先・株主・投資家のさまざまな立場の方々に支えられて成り立っています。中越パルプ工業グループでは、皆さまと良好なコミュニケーションを図りながら、成長していきます。

中越パルプ工業グループのステークホルダー Stakeholders of the Chuetsu Pulp Group



対話の機会 Opportunities for Conversation

対象	内容	対話の方法	頻度
お客さま	苦情対応・工場立ち入り品質会議を行い、品質要求などに対応しています。	お客さま・工場訪問 ウェブサイトによる情報発信 展示会などへの出展	随時
地域の皆さま	工場幹部が安全・環境・製品などの取り組みについて説明 工場見学、意見交換会開催 いただいたご意見や情報は、環境保全に役立てています。	地域モニター懇談会 環境アンケート 各種社会貢献活動への参画	年1回
従業員	風通しのよい職場環境づくりに努めています。	コンプライアンスミーティング 職場安全衛生会議	月1回 月1回
取引先	原燃料、薬品、資材調達、運搬にかかわる業者への原材料調達指針の共有	委託契約に基づく相互確認 安全・環境の講習会など	契約時 年1回
株主・投資家	最高経営責任者が、業績や方針、事業戦略などを説明	定期株主総会 ウェブサイトによる情報開示	年1回 随時

お客さまとの対話(会社訪問) Talks with Customers (Company Visits)

川内工場のそばを流れる川内川で、漁をしている川内市内水面漁業協同組合の役員の方が来場されました。前年の水質に関わる環境関連工事や環境報告に加え、環境保全設備を見ていただきました。役員の方からは工場への要望、貴重なご意見をいただいています。このような情報も取り入れて、設備改善や操業改善など、環境保全の推進に役立てています。



内水面漁業協同組合との意見交換会風景

地域モニター懇談会の開催 Community Monitoring Panel Discussions

工場周辺の自治会の方々にモニターになっていただき、年1回のモニター懇談会の出席、アンケート調査にご協力いただいています。モニターさまからの生の声を真摯に受け止め、設備改善・設備投資などの環境保全の取り組みに役立てています。



地域モニター懇談会風景

従業員との対話 A Conversation with Employees

風通しの良い企業風土の醸成

中越パルプ工業では、従業員一人ひとりが深く交わり自主的に行動し、協力し合う企業風土創りに努めています。中越パルプ工業で働く全ての従業員が、各自の使命や役割を認識し、全員が同じ価値観を持ち、同じ方向に進むことができるよう各種専門部会を通して職場内外の風通しの向上に努めています。

HUMAN CLOSE-UP | 川内工場 環境管理室 室長 川田 正人

「ステークホルダーとの関わり大切さ」

企業の社会的責任に対する関心の高まりといった社会的背景から、ステークホルダーに対し、情報の発信・共有をすることで信頼関係が構築されます。特に社外への発言や説明においては、厳しい指摘もありますが時には期待やお褒めの言葉をいただくこともあります。工場への理解と協力が得られるように、日々心がけています。



コーポレート・ガバナンス

Corporate Governance

中越パルプ工業グループは、コーポレート・ガバナンスが有効に機能する経営体制の構築が経営の重要課題であるとの認識のもと、以下のコーポレート・ガバナンス体制図を構築することで、チェック機能の強化を図り、迅速かつ透明性のある経営により企業価値の向上に努めてまいります。

取締役会

Board of Directors

取締役会は、5名の取締役（監査等委員である取締役を除く）と監査等委員である取締役3名（内2名社外取締役）で構成され、中期経営計画など経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務執行状況の監査・監督を行っています。

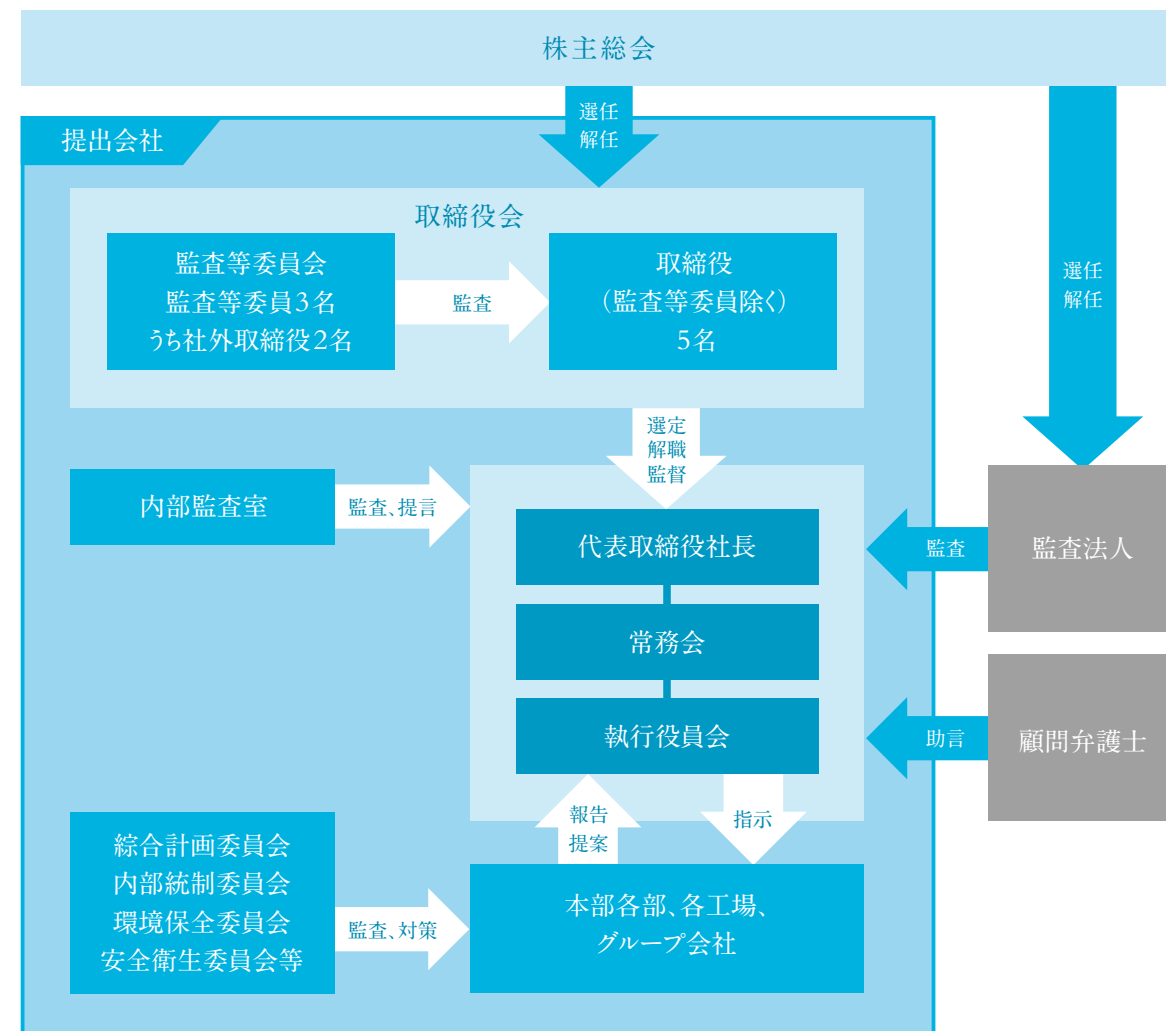
監査等委員会

Committee for Auditing and Related Functions

監査等委員会は、監査等委員である取締役3名（内2名社外取締役）で構成され、社外監査等委員が過半数を占める体制により、業務執行者から独立した客観的な立場で、高い実効性を持った監査を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制図

Corporate Governance Organizational Chart



平成30年度 役員紹介

Introducing FY2018 Officers

取締役



代表取締役社長 兼 執行役員
開発本部管掌

加藤 明美



専務取締役 兼 執行役員
社長補佐
営業本部長

植松 久



常務取締役 兼 執行役員
経営管理本部長
内部監査室・東京事務所管掌

大島 忠司



取締役 兼 執行役員
資源対策本部長
兼 原材料部長

三浦 新



取締役 兼 執行役員
生産本部長

地蔵 繁樹



取締役
常任監査等委員

小林 敬



社外取締役
監査等委員

杉島 光一



社外取締役
監査等委員

山口 敏彦

執行役員



上席執行役員
O&Cアイボリーボード株式会社
代表取締役社長

要堺 由隆



執行役員
三善製紙株式会社
代表取締役社長

宮田 雄二



執行役員
営業本部副本部長
兼 印刷出版用紙部長

皆吉 和彦



執行役員
開発本部長
兼 ナノフォレスト事業部長

永田 健二



執行役員
高岡工場長
兼 営業本部副本部長

磯部 勉



執行役員
営業本部副本部長
兼 営業管理部長

濱本 信之



執行役員
川内工場長
兼 営業本部副本部長

下川 靖博

ISO26000に基づく取り組み事例

Examples of Actions Based on ISO26000

中越パルプ工業グループは、事業活動を通じ社会的責任を果たすためCSRの国際的なガイドラインであるISO26000の中核主題に沿った取り組みを展開しています。下表は、国際規格ISO26000の7つの中核主題に関連する項目の情報を記載しています。

中越パルプ工業：KPIとパフォーマンス対照表

CHUETSU PULP & PAPER Co., Ltd.: KPI and Performance Balance Sheet

中核主題	実践項目	具体事例	関連ページ
企業統治	コーポレート・ガバナンス	社外監査役選任、株主総会開催	P42
人権	差別および権利	行動指針	—
労働慣行	雇用の多様化	障がい者雇用率	P34
	働きやすさと個人の能力を発揮する職場環境	ワーク・ライフ・バランス	P35
	労働安全、健康経営	健康宣言、安全衛生、防火防災訓練	P35, P36
	人材育成および訓練	資格取得奨励、研修会開催	—
環境	環境汚染の予防	各種法令・協定の遵守、設備予防保全	P26
	気候変動の緩和と適応	再生可能エネルギー、廃棄物エネルギーの積極利用	P29
	生物多様性保全	「中パの森」開所	P22, P23
		寄付金が付加された印刷用紙「里山物語」の販売	P23
	持続可能な資源の活用	ゼロ・エミッション、有効利用率	P28
公正な事業慣行	コンプライアンスの徹底	コンプライアンスミーティング、リスクマネジメント	—
	ビジネスパートナーと共に	お客さまとの対話（会社訪問）	P40, P41
消費者課題	製品の安全性	品質会議、食品用途用紙管理規則	P32, P33
	苦情処理	品質監査、古紙監査	P33
コミュニティ参画・発展	地域との共生	地域行事、清掃活動への参画	P38, P39, P41
	若年者への環境教育	保育園、小学校の出前事業	P22, P23, P37

SDGsに関する環境保全の取り組み

Environmental Conservation Efforts for Sustainable Development Goals

2015年9月、国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、193の加盟国の全会一致で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されSDGs（持続可能な開発目標）が掲げられました。中越パルプ工業グループは事業活動を通じ、SDGsのゴールに向けた様々な取り組みを展開しています。



SDGsは、持続可能な社会をつくることを目指し、世界が抱える問題を17の目標と169のターゲットに整理したものです。17の目標には貧困問題、気候変動や資源エネルギー、都市問題、地域間・国内格差など2030年までの達成に向けて世界が一致して取り組むべきビジョンと課題が網羅されています。

主な環境保全の取り組み一覧表

List of Main Environmental Conservation Efforts

SDGs	中越パルプ工業の主な環境保全の取り組み	関連ページ
	○ 適切な森林管理により、森林の機能を良好に維持管理する。 ・社有林の整備、中パの森活動	P10, P26
	○ 再生可能エネルギーの推進 ○ 環境負荷の低いクリーンエネルギー ○ 工場の省エネ、エコ物流の推進	P8, P26, P28 P29, P30
	○ 木質資源の高度化利用 ・セルロースナノファイバーの開発・商品化 ○ 新技術導入 ・新素材 MAPKA®	P8, P10, P26 P30, P32
	○ 古紙の利用、原料歩留まりの向上、PRTR化学物質の把握と代替 ・古紙利用の促進、古紙配合の適正化 ○ 大気、水質、土壌への排出削減 ○ 廃棄物の削減および有効利用拡大 ・ゼロエミッションの達成	P8, P10, P24 P30, P32, P39
	○ CO ₂ 削減、化石燃料の削減 ・化石燃料から再生可能エネルギー、廃棄物エネルギーへの転換を積極的に行っています。	P10, P24, P26 P28, P29, P30 P38
	○ 富栄養化を含む海洋汚染防止 ・排水薬品に係る窒素・燐使用量の削減	P10, P37
	○ 認証材の推進 ・国内間伐認証材の使用推進 ・FSC® および PEFC 認証材の活用 ・竹の利用促進	P8, P10, P22 P23, P24, P37

※上記表は主な環境保全の取り組みに特化したターゲットを記載しています。

会社概要

Company Profile

商 号	中越パルプ工業株式会社 Chuetsu Pulp & Paper Co., Ltd.
東京本社所在地	東京都中央区銀座 2-10-6
高岡本社所在地	富山県高岡市米島 282
創 業	1947年2月20日
代 表	代表取締役社長 加藤 明美
資 本 金	188億64百万円(2018年3月31日現在)
主 な 事 業 内 容	紙(印刷・情報用紙、包装紙、特殊加工紙、新聞用紙など)・ パルプの製造販売、売電事業

■編集方針について

●数値データ対象期間

本報告書は2017年度の実績を基に記載しています。
但し、一部2018年4月以降の情報も含まれます。

●取り組み報告対象範囲

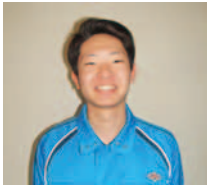
本報告書の対象範囲は、中越パルプ工業株式会社の社会・環境の取り組みです。

●対象分野

本報告書には、中越パルプ工業株式会社の環境的側面、社会的側面、経済的側面を掲載しています。

■ウェブサイト ▶ <http://www.chuetsu-pulp.co.jp>

写真提供者



P.2 目次
高岡本社 二塚製造部
動力課発電係
古川 雄介



P.26、P.43 (コスモス)
高岡本社 生産本部
環境管理統括部
柳澤 明

本書に関する
お問合せ先

中越パルプ工業株式会社 生産本部 環境管理統括部
〒933-8533 富山県高岡市米島 282
TEL. 0766-26-2462 FAX. 0766-26-2454

事業所一覧

Locations and Facilities

■本社

東京本社
〒104-8124
東京都中央区銀座 2-10-6 TEL 03-3544-1524

高岡本社
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2401

■工場

川内工場
〒895-8540
鹿児島県薩摩川内市宮内町 1-26 TEL 0996-22-2211

高岡工場
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2401

生産本部二塚製造部
〒933-8526
富山県高岡市二塚 3288 TEL 0766-28-6600

■営業支社・営業所

大阪営業支社
〒550-0001
大阪府大阪市西区土佐堀 1-3-7 肥後橋シミズビル 10 階
TEL 06-6441-7151

名古屋営業所
〒460-0003
愛知県名古屋市中区錦 1 丁目 8 番 8 号 いちご錦ファーストビル 4 階
TEL 052-221-9131

福岡営業所
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前 3-19-5 博多石川ビル 6 階
TEL 092-411-4962

北陸営業所
〒933-8533
富山県高岡市米島 282 TEL 0766-26-2470



■グループ会社

- 紙・パルプ製造事業
三善製紙株式会社
- その他の事業
株式会社文運堂
中越緑化株式会社
中越物産株式会社
中越ロジスティクス株式会社
中越テクノ株式会社
共友商事株式会社
中越エコプロダクツ株式会社(2018年7月)
- 持分法適用会社
中越パッケージ株式会社
中部紙工株式会社
王子製袋株式会社
上海東王子包装有限公司
王子包装(上海)有限公司
王子製袋(青島)有限公司
Japan Paper Technology(Viet Nam)Co., Ltd.
Japan Paper Technology Dong Nai(VN)Co., Ltd.
- その他関係会社
中越パルプ木材株式会社
九州紙管株式会社
石川紙工株式会社
有限会社南薩緑化センター
O&C アイボリーボード株式会社
O&C ファイバートレーディング株式会社
O&C ペーパーバッグホールディングス株式会社
中央紙工株式会社
株式会社楠見製袋所
エヌシー共同開発株式会社
Acacia Afforestation Asia Co., Ltd.



高岡工場



二塚製造部



川内工場